針原西遺跡Ⅲ地区発掘調査概要

－町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査－

2002年12月

富山県小杉町教育委員会

針原西遺跡Ⅲ地区発掘調査概要

－町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査－

2002年12月

富山県小杉町教育委員会

序

小杉町は富山県のほぼ中央にあって、南部には標高117mの高津峰山を主峰とするなだらかな射水丘陵が北へ向かって８km程続き、その北部には広大な射水平野が開け、町域の中心を南北に下条川が流れる緑豊な町であります。

現在、小杉町域には約300箇所にもおよぶ遺跡が確認されています。このうち３分の２が丘陵部に立地し、平野部には下条川沿いや小河川を中心に約100箇所あまりの遺跡が点在しています。

このたび調査は、昭和41年に都市計画決定されました町道東老田高岡線道路整備事業に先立ち、平成12・13年度と実施いたしました。

今年度の調査は前年度の東側区域で実施し、平成12年度の調査と関連づけられる縄文時代の川跡が確認されました。

太古には丘陵部から発した川が、平野の軟弱な地盤をけずりながら様々な流路をとり、海へ向かって流れ出ていたことや川伝いに適地を見つけ、自然を巧みに利用して人々が生活していた様子などを窺い知ることができました。

こうした調査成果をまとめた本書が、今後の調査研究を進めるうえでの参考になり、郷土の歴史を紐解く手がかり及び文化財保護の一助になれば幸いです。

終わりに、発掘調査から報告書刊行に至るまで、終始ご理解・ご協力いただきました地元の皆様をはじめ、関係各位に深く感謝を申し上げます。

平成14年12月

小杉町教育委員会

教育長　稲　葉　茂　樹

例　　言

1．本書は富山県射水郡小杉町黒河地内に所在する針原西遺跡（Ⅲ地区）の発掘調査概要である。

2．調査は、町道東老田高岡線道路整備事業に先立ち、小杉町都市建設課の依頼を受け小杉町教育委員会が実施したものである。

3．調査期間及び面積は次のとおりである。

試掘調査　平成13（2001）年３月28日～同年３月30日（延べ３日間）　発掘面積430㎡（対象面積　4,000㎡）

本 調 査　平成13（2001）年５月17日～同年８月６日（延べ43日間）　発掘面積900㎡

遺物整理及び報告書作成

平成13（2001）年10月26日～平成14（2002）年12月20日

4．調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、課長補佐　高橋　登が調査事務を担当し、平成13年度は生涯学習課課長　御後庄司が、14年度は課長　萩野恭一が総括した。また調査は主任　原田義範が担当した。

5．調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言・指導をいただいた。また、発掘から報告書刊行に至るまで次の方々から協力を得た。記して深く謝意を表したい。(敬称略、五十音順)

上野　章・酒井重洋・田中　明・星井正弘・堀井泰樹・山内賢一・黒河地区安全対策協議会・北陸中央食品㈱

6．本書掲載の遺物写真は、牛嶋　茂氏（奈良文化財研究所）が撮影した写真を使用した。

7．発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。(五十音順)

［現地調査］大杉正夫・酒井すず子・酒井義雄・高橋八智子・土田ユキ子・西野浪子・久野静枝・三上正夫
村井睦子・安田久実代・山口チズ子

［整理作業］金瀬ますみ・吉島正喜・開　一美・堀埜実津子・安田久実代・吉沢泰子

8．調査で得た図面・写真・遺物は小杉町教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。

針原西遺跡　Ⅲ地区　：HWW－Ⅲ

凡　　例

1．本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海抜高である。

2．調査区の座標は次のとおりである。

X10Y10＝X78543.147 Y－4165.603　X14Y10＝X78551.074 Y－4166.680　X6Y10＝X78535.219 Y－4164.527

X10Y15＝X78544.492 Y－4155.694

3．遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。

SD：溝、SK：土坑、SP：柱穴及び柱穴状ピット、SX：不明遺構

4．遺構図の縮尺はSDを１/80、SK・SP・SXは１/40を基本にした。

5．出土遺物実測図の縮尺は土器の１/４を基本とし、縮尺の異なる出土遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。また遺物図版の縮尺は１/３を基本にし、異なる場合は別に表記した。

6．遺物実測図中の土器などの表現は次のとおりとした。

灰釉　　鉄釉　　石器（断面）　　須恵器・珠洲（断面）

7．土層図中の色調は、小山正忠・竹原秀雄編　1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社の表記を用い、土色の測定には土色計(第一合成社製　SRC－１)を使用した。

目　　次

Ⅰ　針原西遺跡と周辺の縄文遺跡 …… 1
Ⅱ　調査の経緯 …… 3
　1．調査に至るまで …… 3
　2．分布調査 …… 3
　3．第１次試掘調査 …… 3
　4．第２次試掘調査 …… 4
Ⅲ　調査の概要 …… 5
　1．層序 …… 5
　2．遺構と遺物 …… 5
Ⅳ　縄文土器群について …… 6

挿図目次

第１図　周辺の主な遺跡 …… 2
第２図　第２次試掘調査トレンチ位置 …… 4
第３図　試掘調査の出土遺物（1～6T） …… 4
第４図　地形と発掘区区割り …… 7
第５図　遺構配置図（下層） …… 9
第６図　SX30・35,SD34 …… 10
第７図　SD04（SX06,SD18） …… 11
第８図　SX07～11・14・15・20・21,SK1 …… 13
第９図　SX25～29・31～33 …… 14
第10図　遺構配置図（上層） …… 15
第11図　上層の遺構（SD01・03・36,SK02・03） …… 16
第12図　SD04（SX06・SD18）の出土遺物 …… 17
第13図　SD04（SX06・SD18）の出土遺物 …… 18
第14図　上層の遺構出土遺物 …… 19
第15図　遺構外の出土遺物（2・3層） …… 20
第16図　遺構外の出土遺物（2・3層） …… 21

表目次

第１表　針原西遺跡の主な周辺遺跡 …… 3
第２表　出土遺物観察表 …… 22～24

図版目次

図版１　調査区上空・近景
図版２　試掘調査
図版３～８　遺構
図版９～12　出土遺物

Ⅰ　針原西遺跡と周辺の縄文遺跡

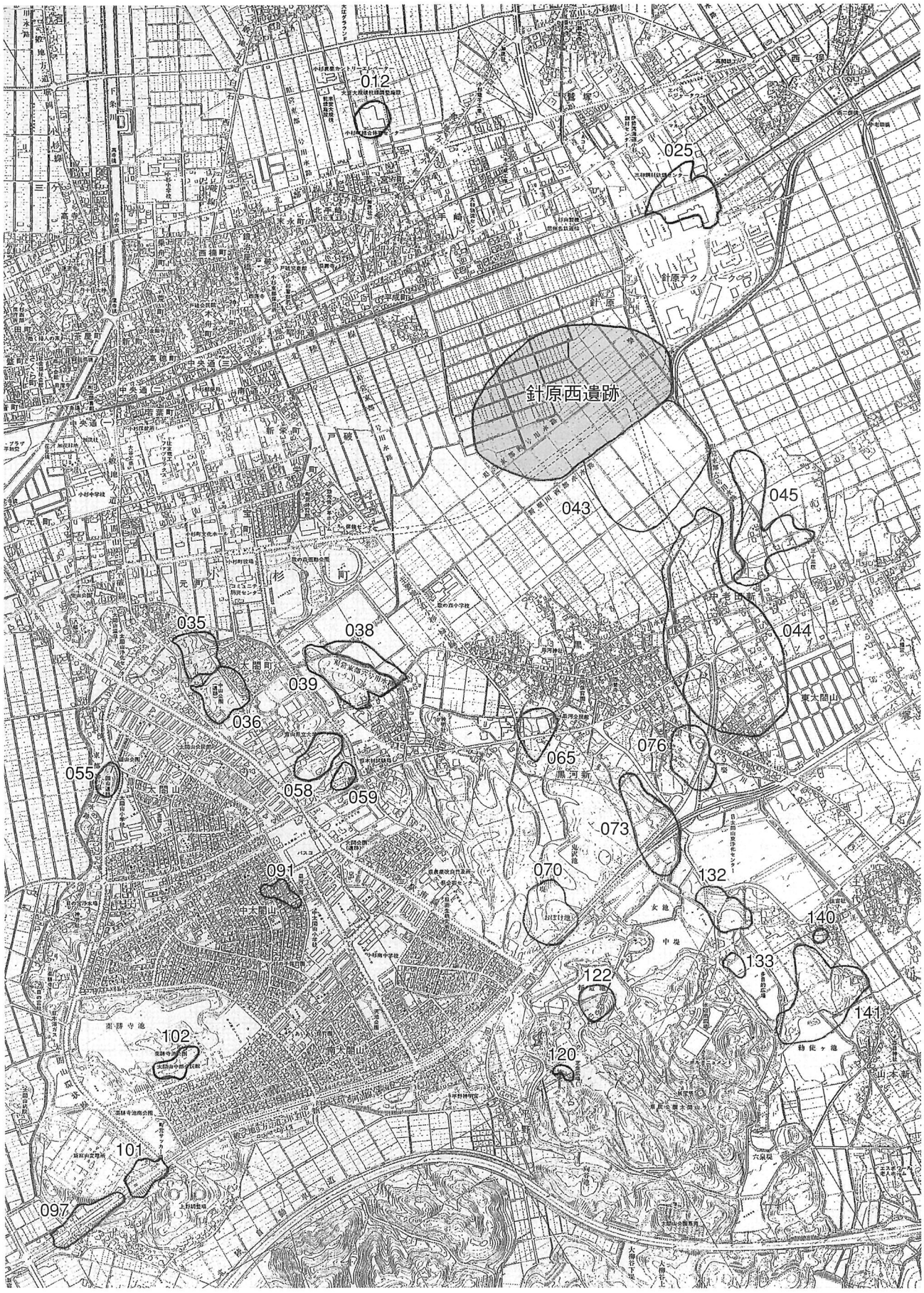
富山県は北に日本海、南に北アルプス・立山連峰に囲まれている。急峻な北アルプスに端を発する黒部川・片貝川・早月川・常願寺川・神通川・庄川・小矢部川の七大河川が扇状地・自然堤防帯・潟埋積平野を形成し、富山平野を成す。

この富山平野に対し、常願寺川と神通川により形成された、もう一つの富山平野が富山県のほぼ中央に位置し、その西に射水平野が位置する。本調査区が所在する富山県射水郡小杉町は、この射水平野と標高10mほどの射水丘陵に位置する。本調査区は、この平野部と丘陵部のちょうど境目辺りに位置する。

今回は本遺跡周辺の遺跡として、1990年に富山考古学会縄文部会がまとめた「射水丘陵の縄文時代遺跡」を基に縄文時代の遺物が確認されている26遺跡をあげた（第１表）。26遺跡の内訳を見ると、丘陵部に所在する遺跡は中山中遺跡や囲山遺跡、南太閤山Ⅰ遺跡などといった20遺跡が確認されている。これに対し平野部に展開する遺跡は、戸破若宮遺跡、黒河尺目遺跡など、本遺跡を入れて６遺跡が確認されている。丘陵部に展開する遺跡と平野部に展開する遺跡を時期別に比較すると、丘陵部においては、南太閤山Ⅰ遺跡の早期をはじめとし晩期の後半まで、万遍なく遺物が出土している。一方、平野部においては、本遺跡と黒河尺目遺跡で前期前半の遺物が確認されているが、量的には少なく、中期以降が中心となる。

この分布状況の違いについて、まず、遺跡数の違いは開発による調査数が原因の一つとしてあげられる。これは、早い時期に太閤山を中心とした地域の開発事業が進んだためと考えられる。次に、時期の違いについては、約6,000年前の「縄文海進」による海水面の上下が一つの要因として考えられる。縄文海進時において、本遺跡が位置する射水平野部は大半が海面下、もしくは波打ち際となり、また、河川河口部分に所在する本遺跡などは、湿地帯であったと考えられることから、生活環境としては劣悪な条件下となる。

このため、縄文時代早期後半から前期前半にかけての生活拠点は平野部よりも若干高めの丘陵地域に設置され、本遺跡をはじめとした平野部の遺跡は、これらの生活拠点のキャンプ・サイトとしての性格が強いものと考えられる。縄文海進の最大ピークは縄文時代前期中葉から後葉にかけてであり、このときに最も射水平野に海面が入り込んでいたと見られる。その後、中期にかけて徐々に海面は後退していき、中期の中葉ほどになると、一時期、現海水面よりも低い水準を示している。このことは、平野部に所在する遺跡の出土状況でも明らかで、本遺跡や黒河尺目遺跡のように、前期前半の遺物は出土してくるのに対し、前期中葉期、型式で蜆ヶ森式から福浦上層式期の土器群がほとんど見られない。その一方で、中期の新保式古段階からまた土器群が見られてくるようになるということからも、遺跡形成の過程が理解できるかと考えられる。



第１図　周辺の主な遺跡（1：20,000）

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	備考
012	戸破若宮遺跡	戸破字若宮	散布地	縄・弥・奈・平・中・近	平成３年発掘調査
025	針原東遺跡	戸破字針原、富山市	散布地	縄・弥・奈・平・中	平成2・3・4年発掘調査
035	中山中遺跡	黒河	散布地	旧石・縄・弥・古・奈	昭和56・平元年試掘調査、平2年発掘調査
036	中山南遺跡	黒河	集落	縄文・弥生	昭和50年県指定史跡、昭38・43年発掘調査
038	三谷遺跡	黒河新	散布地	旧石・弥・古・奈・中	昭和63年発掘調査
039	一ッ山古墳群	黒河新	墓・古墳	弥生・古墳・奈良	昭和63年発掘調査
043	黒河・中老田遺跡	黒河、富山市	散布地	縄文・奈良・平安・中世	平成13年発掘調査
044	黒河尺目遺跡	黒河字尺目	集落	旧石・縄・奈・平・中・近	平成３年発掘調査
045	塚越貝坪遺跡	中老田新・塚越字貝坪	散布地・製鉄	縄文（中）・奈・平・中	昭和62・63・平成２年一部試掘調査
055	囲山遺跡	太閤山八丁目	散布地・墓	縄文（前）・弥生（後）	昭和44年発掘調査
058	太閤山遺跡	黒河新字大開	散布地	縄文（中期）	
059	大開遺跡	黒河新字大開	散布地	縄文（中期）	昭和48年発掘調査
065	黒河竹山遺跡	黒河	散布地	縄文・奈良・平安	昭和62・63・平成３年一部試掘調査
070	高山遺跡	黒河字高山	散布地・製鉄	旧石器・平安	昭和54年発掘調査
073	東山Ⅱ遺跡	黒河字東山	散布地・製鉄	縄文・古墳・奈良	昭54・57年発掘調査、平2・3年試掘調査
076	表野遺跡	黒河新字表野	集落・製鉄	旧石器・縄文・奈良	昭和54年発掘調査、平成３年試掘調査
091	十三塚	中太閤山	その他	縄文（中期）・近世	昭和45年発掘調査
097	南太閤山Ⅰ遺跡	南太閤山19丁目	集落・墓	縄・弥・古・奈・平・近	昭和57～60年発掘調査
101	南太閤山Ⅱ遺跡	南太閤山	製鉄	縄・弥・古・奈・平	昭和55～58年発掘調査
102	薬勝寺池南遺跡	中太閤山	散布地	縄文	昭和48年一部発掘調査
120	太閤山ランド内№15遺跡	黒河	散布地・製鉄	縄文・古代	
122	新造池Ａ遺跡	黒河	散布地・集落	旧石器・縄文（中）・奈良	昭56年試掘調査、昭57年発掘調査
132	土代Ａ遺跡	黒河（土代字堀田ノ高）	散布地・製鉄	旧石・縄文・奈良・平安	昭和56年試掘調査
133	石太郎Ａ遺跡	黒河（土代字石太郎）	散布地	旧石器・縄文	昭和56年試掘調査
140	土代遺跡	山本新（土代）	散布地	縄文	昭和55年発掘調査
141	太閤山ランド内№26遺跡	山本新（土代）	散布地・製鉄	旧石・縄文・奈良・平安	

第１表　針原西遺跡の主な周辺遺跡

Ⅱ　調査の経緯

１ 調査に至るまで

針原西遺跡周辺の遺跡は、東側に隣接する針原東遺跡や西二俣遺跡、南側に位置する黒河・中老田遺跡が知られていた。当遺跡は、地元中学生が昭和63年７～８月にかけて水田の畦や畑の踏査を行い、弥生時代の土器や奈良時代の須恵器・土師器などを採集し、遺跡の存在が明らかになったものである。この時の踏査で針原東遺跡や西二俣遺跡の存在も確認されている［中島1988］。

町道針原テクノパーク線道路整備事業は、昭和41年に都市計画決定された町道東老田高岡線道路整備事業（平成９年変更）が進むなか、町道177号線の交通量緩和を目的とし同路線の支線的な役割を担う道路として平成10年４月に計画されている。こうした経過の中、町教委にこの２路線の施工実施計画が示された。平成11年９月に町都市建設課と路線内の遺跡の取扱いについて協議したところ、秋の収穫後に周知の針原西遺跡を含む計画路線内の踏査を実施し、その結果を踏まえ調整を図っていくこととなった。

２ 分布調査（平成11年度）

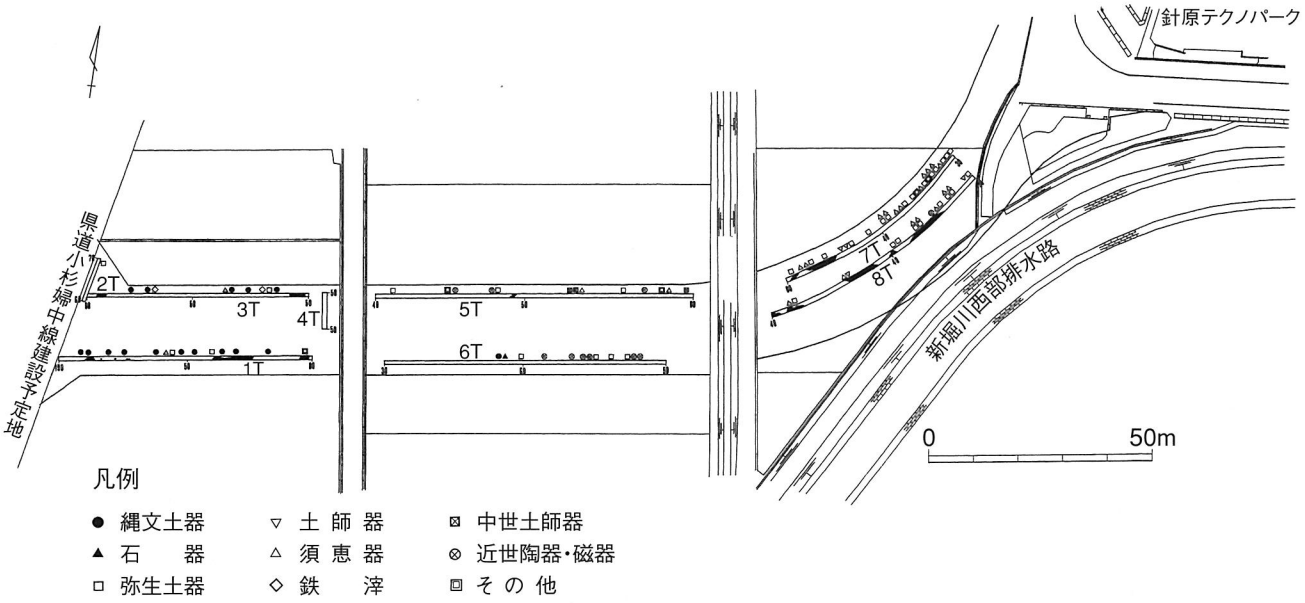
分布調査は10月５日に町教委が主体となり、町道東老田高岡線計画路線内全線を対象として実施し、周知の針原西遺跡を越える範囲で、弥生時代から近世に至る遺物の散布が確認された。この調査結果に基づき、遺物の散布が見られなかった計画路線東西端を除く路線内で試掘調査を実施することとなった。

３ 第１次試掘調査（平成11年度）

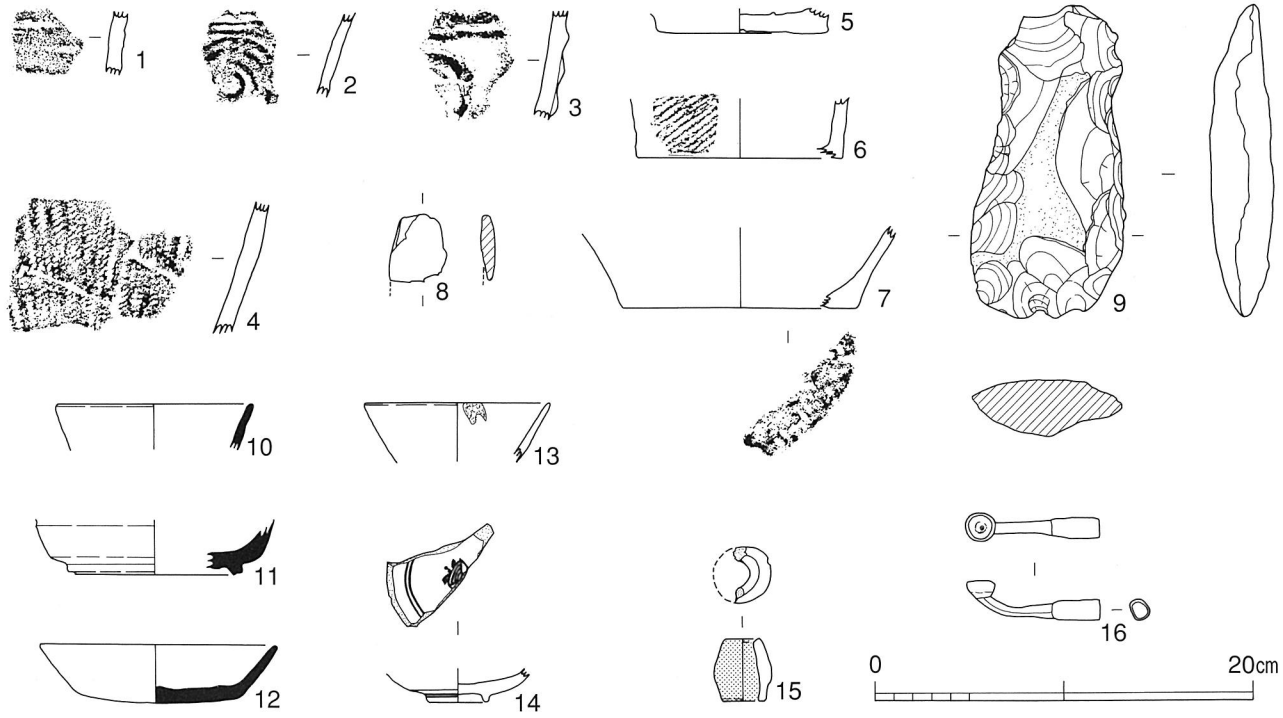
平成12年２月21日から２月25日まで町道東老田高岡線計画路線内の700m区間で、西から東へと道路敷に平行する試掘溝を19本設定し行った。縄文時代から近世に至る遺物と小河川や溝状遺構などが確認でき、遺物・遺構にまとまりの見られた二地区2,000㎡で本調査（平成12年度実施済）が必要となった。

4 第２次試掘調査（平成12年度）

２次の試掘調査対象地は、平成11年度の分布調査では遺跡に支障のない範囲と判断されていた。しかし、同年７月17日から12月22日まで実施した本調査から近隣に縄文時代の集落などの存在が想定されたため、一次試掘調査を行っていなかった町道東老田高岡線と針原テクノパーク線の道路用地を対象に試掘調査を実施することとなった。　調査は平成13年３月28日から３月30日に行い、12年度本調査実施の東側隣接地から縄文時代の川跡の一部と遺物が確認され、約900㎡の本調査が必要となった。また、針原テクノパーク線東端で弥生土器が大量に出土した包含層を確認し、約650㎡の本調査が必要となった。



第２図　第２次試掘調査　トレンチ位置



第３図　試掘調査の出土遺物（１～６Ｔ）

Ⅲ　調査の概要

1 層序

調査区の基本層序は１～４層に分層される。上から１層は水田耕作土、２層は黒褐色(2.5Y3/1)、３層は黄灰色(2.5Y4/1)で共に弱粘性の自然堆積土、４層はオリーブ褐色(2.5Y4/3)で弱粘性の地山である。

2 遺構と遺物

ＳＤ04（ＳＸ06・ＳＤ18）[下層]（第５・７・12・13図、図版４・５・９～11）

調査区南側に位置し東西方向に向けて蛇行しながら流れ、西端は本遺跡ⅡＡ区のＳＤ03へ繋がり、東端は調査区外へのびる縄文時代の自然流路である。調査区とほぼ並行していたため、溝の北側肩部が部分的に検出したにすぎない。埋土は炭化物や腐植物・種子を含む黒褐色粘性土が主に堆積する。遺物は縄文土器・石錘が出土している。第12図１～５は晩期後葉の下野式の深鉢である。２・３は口縁部に指押さえによる微隆帯、胴部にかけて横条痕を施すもの。４・５は口縁部をやや肥厚させ、貝殻復縁による押引文を施すもの。７は口縁部に貝殻復縁文や沈線文を施す串田新式、時期は中期後葉である。16は平行沈線の中に木葉文を施す中屋式、時期は晩期中葉である。19・20は両欠石錘。第13図29・30は口縁部に三角押引文や三角刺突文を施す気屋式、時期は後期前葉である。33・34は微隆起線文を縦位、木葉状文を施す串田新式。45・46は口縁部に多条沈線文を施し、時期は中屋式～下野式のものか。

ＳＤ01[上層]（第10・11・14図、図版８）

調査区西端部に位置する東西方向の溝である。西端は調査区外へのびるが、東端は区画整理以前の水路跡によって破壊されている。全長約７ｍを検出し、幅40㎝～80㎝、深さ約15㎝を測る。埋土は粘性の強い褐灰色土に炭化物が混在する。遺物は縄文土器（第14図51・52）が出土しているが、溝の帰属時期を特定するものではなく、下層遺構からの流れ込みによるものと考える。

ＳＤ36[上層]（第10・11・14図、図版８）

調査区東端部に位置する南北溝で、全長約2.6ｍ、深さは最深で95㎝を測る。埋土は上層に区画整理時の耕作土である黒褐色砂質土、下層に小砂利・砂を含む黒褐色粘性土が堆積している。帰属時期は、土層断面の掘り込みや埋土の状況から推察すると近代以降の用排水と考えられる。

遺構外出土遺物[２・３層]（第15・16図、図版９・10・12）

包含層からは縄文土器・土師器・須恵器・珠洲・近世陶磁器・石製品・金属製品が出土している。第15図56～78は中期中葉の上山田・天神山式から後期前葉の気屋式までの縄文土器である。83・84は磨製石斧、85・86は打製石斧。第16図89～100は須恵器（坏・坏蓋・鉢）、101・102は珠洲(片口鉢・甕）である。107は見込底部に梅鉢文様のある伊万里。112・113はキセルの火皿・雁首、114は吸い口である。

参考文献

能都町教育委員会／真脇遺跡発掘調査団　1986年　『真脇遺跡』(1997年復刻版)
酒井重洋　1996年　「下野式土器」『日本土器事典』　大川靖・鈴木公雄・工楽善通編　雄山閣
原田義範他　2002年　『針原西遺跡発掘調査報告－町道針原テクノパーク線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査－』
小杉町教育委員会

Ⅳ　縄文土器群について

概要

本地区出土縄文土器群は、朝日下層式期が1点認められるが、主体は後期から晩期にかけてである。特に晩期の土器群については下野式期の土器がまとまって出土しており、本地区の時期はほぼこの晩期に収まるものと考えられる。

1）前期

1点ではあるが、格子目に微隆起線文を施す土器片がある（第13図31）。摩滅がかなり著しいが、前期末葉の朝日下層式もしくは、新保式の古段階に比定できるものと考える。

2）中期

上山田・天神山式が朝日下層式に続いて次に古くなるが2点のみの出土である。次に串田新式が続くが、これも数量的には多くはない。土器片の大きさもそんなに大きくないことから、流れ込みによるものと考えられる。

3）中期末葉から後期

中期土器群に続く土器群として、中期末葉から後期の土器群をあげた。ここまでの土器群としては数量的にまとまっており、前田式と気屋式がほぼ同じ割合で出土している。特徴的な土器群は見あたらず、両者とも粗製の土器群で構成されている。

4）晩期

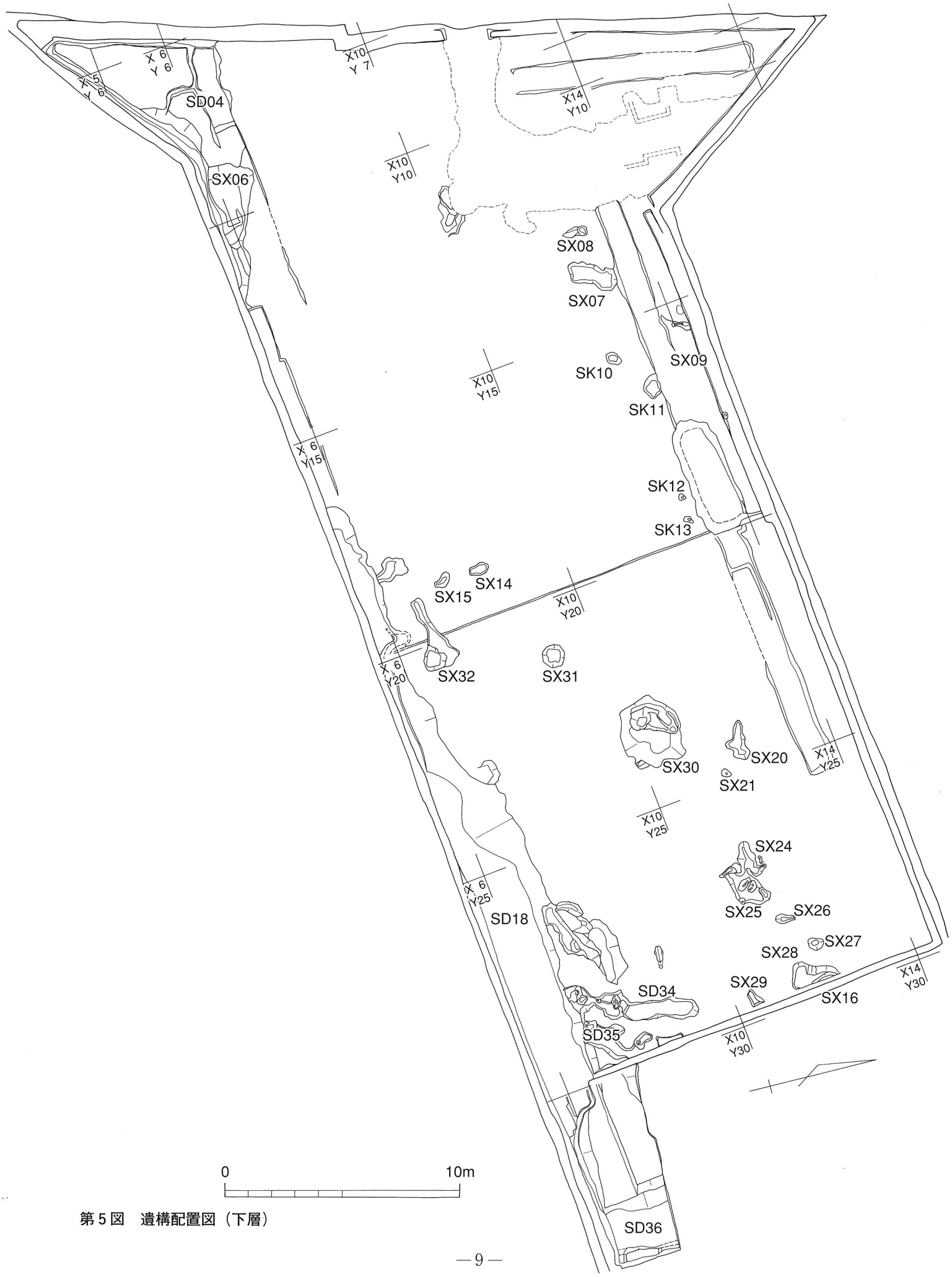
気屋式後の土器群は続かず、次は晩期・下野式と見られる土器群が出土している。この下野式期に比定した土器群は、口縁部及び頸部にナデによる微隆起線文を施し、胴部には条痕文を施す土器群と（第12図1・2など）、口縁部をやや肥厚させ、そこに貝殻腹縁による押引文を施し、また頸部にはナデによる無文もしくは微隆起線文を施し、胴部には条痕文を施す土器群（第12図4・5）の2つの土器群が存在する。器形的には後者の方が緩く「く」字状に屈曲している。だが、第12図21の土器は、逆「く」字状に屈曲し、口縁端部を指押さえにより肥厚させ、頸部は無文、胴部に条痕を施すという土器も見られる。下野式並行と見てよいのだろうが、下野式の中でも新しい分類基準の土器資料となるものと考えられる。今回はこの土器を「下野式針原西段階」として捉えた。今後の資料増加に期待される。

下野式は富山・石川両県下に分布しているが若干の地域差がある。酒井重洋氏はその違いについて「とくに条痕の深鉢では、連続押引列点文を主の文様とする石川県下に比べ、富山県下では口唇部にクシ状工具で刻み、胴上部に凹線を施す」としている（酒井 1996）。このことからも、今回の土器群は、富山県下における下野式土器群と見て間違いない。下野式は、北陸地方において縄文時代最終末の型式であり、その後に続く弥生土器「柴山出村式」との関連性を求められる土器群である。今回の資料ではそこまでを読み取れる資料は無いと考える。

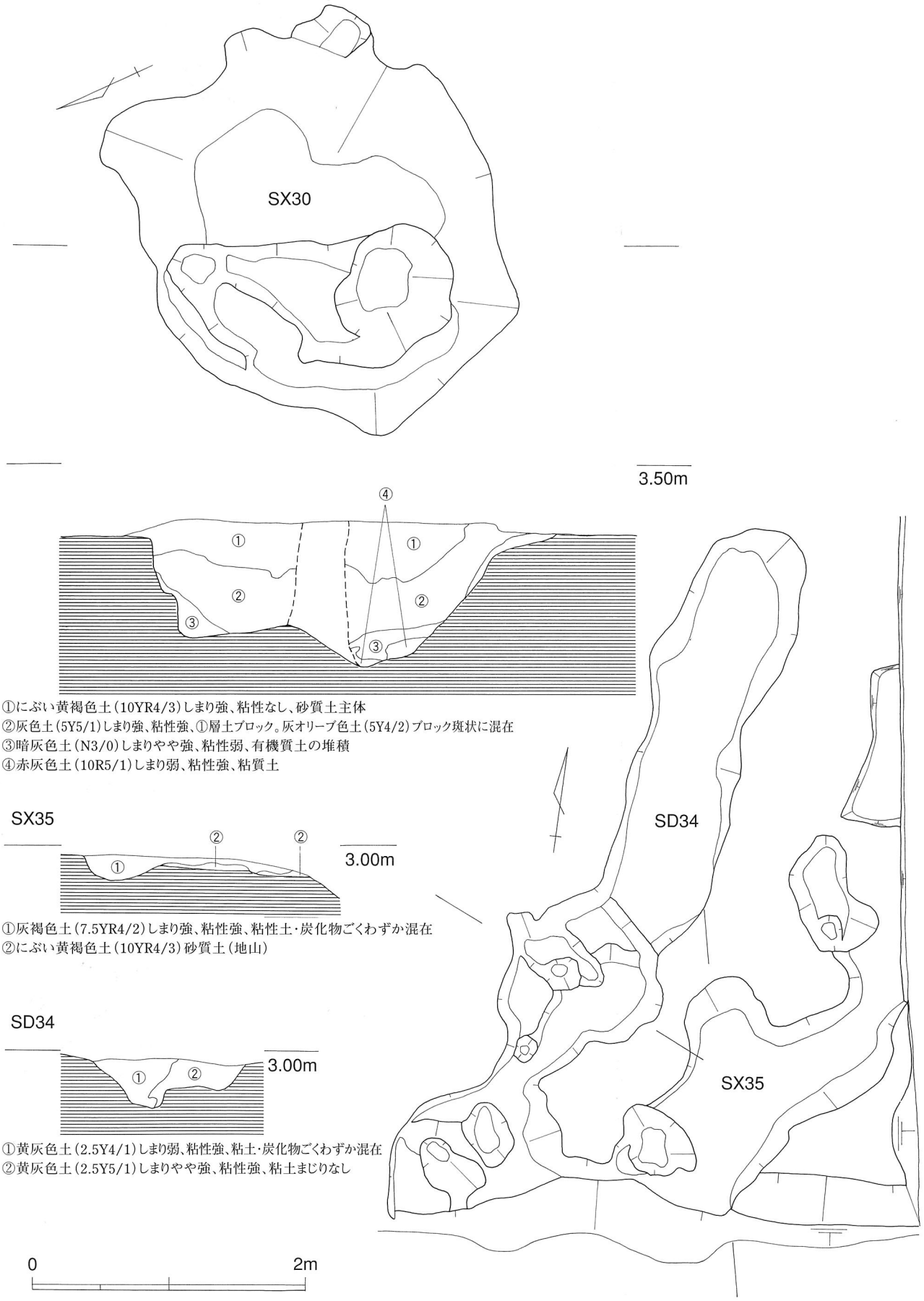
針原西遺跡Ⅲ地区の出土縄文土器についての概要を述べた。本遺跡の他の調査区とは違い、晩期が主体となっている点は、興味深い結果である。小杉町・針原地区周辺の縄文時代の様相を総合的に捉えていくには重要な調査区になるものと考える。

第４図　地形と発掘区 区割り

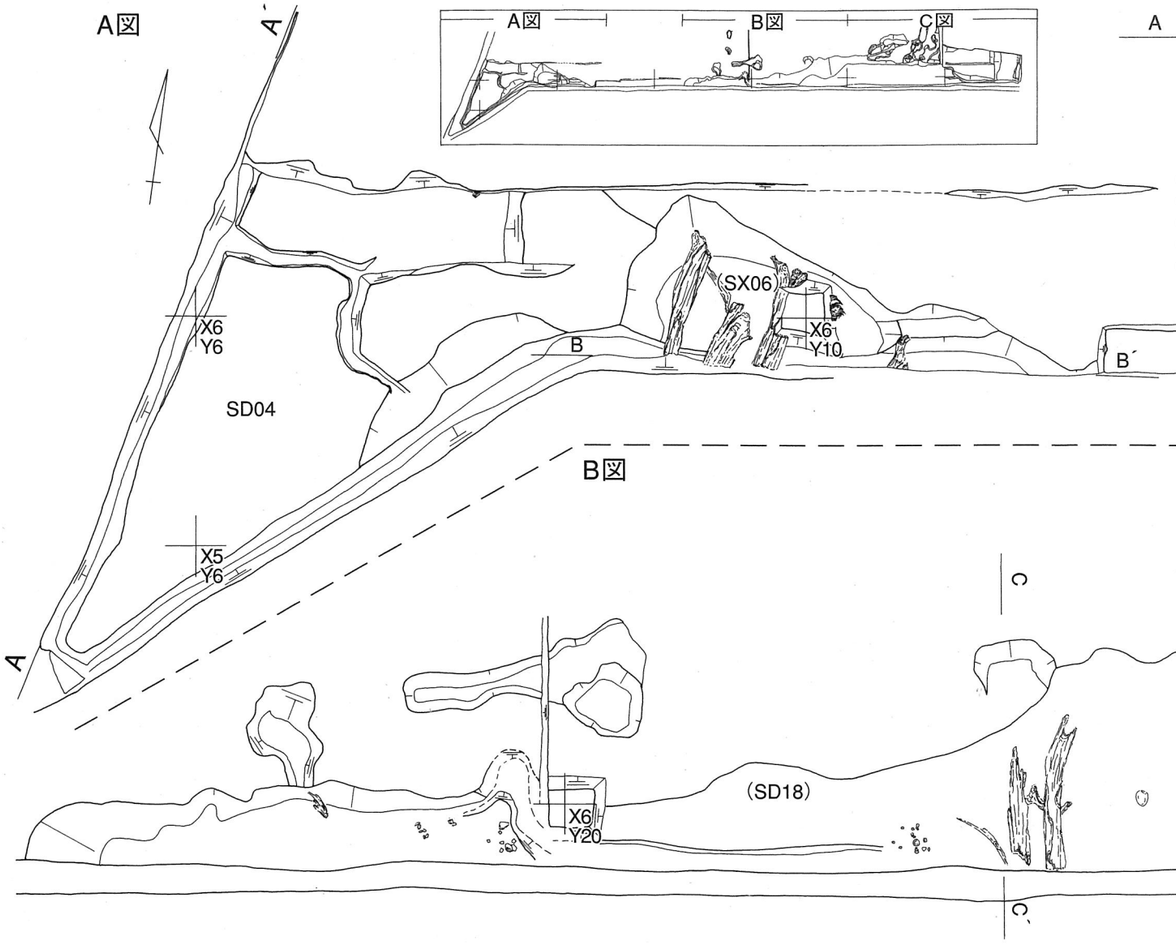
3.38
3.38
3.38
3.41
3.50
3.65
3.75
3.84
3.48
3.41
3.38
3.44
3.48
3.35
3.32
3.34
3.46
3.54
3.73
3.73
3.80
3.76
3.89
3.54
3.53
3.51
3.46
3.44
3.42
3.61
3.85
3.17
(Ⅱ地区)
(東区)
(Ⅲ地区)
(Ⅳ地区)
(黒河・中老田遺跡)
新堀川西部承水路
X60
X50
X30
X20
X10
Y30
Y20
Y10
X40
B4
C3
C4
D2
D3
D4
C2
0
100m
縄文時代の川跡

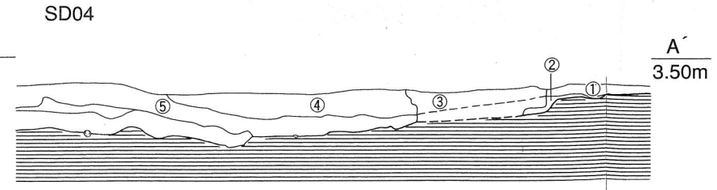

X 6
Y 6
X 5
Y 6
SD04
X10
Y 7
X14
Y10
X10
Y10
SX06
SX08
SX07
SX09
SK10
X10
Y15
SK11
X 6
Y15
SK12
SK13
SX14
SX15
X10
Y20
X 6
Y20
SX32
SX31
SX30
SX20
SX21
X14
Y25
X10
Y25
SX24
X 6
Y25
SD18
SX25
SX26
SX27
SX28
SX29
SD34
SX16
X14
Y30
SD35
X10
Y30
0
10m
SD36

第５図　遺構配置図（下層）

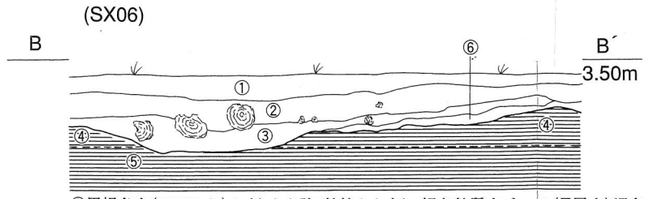


第6図　SX30・35,SD34

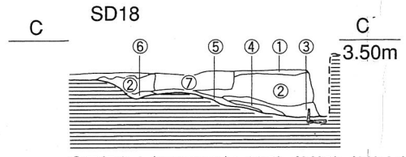




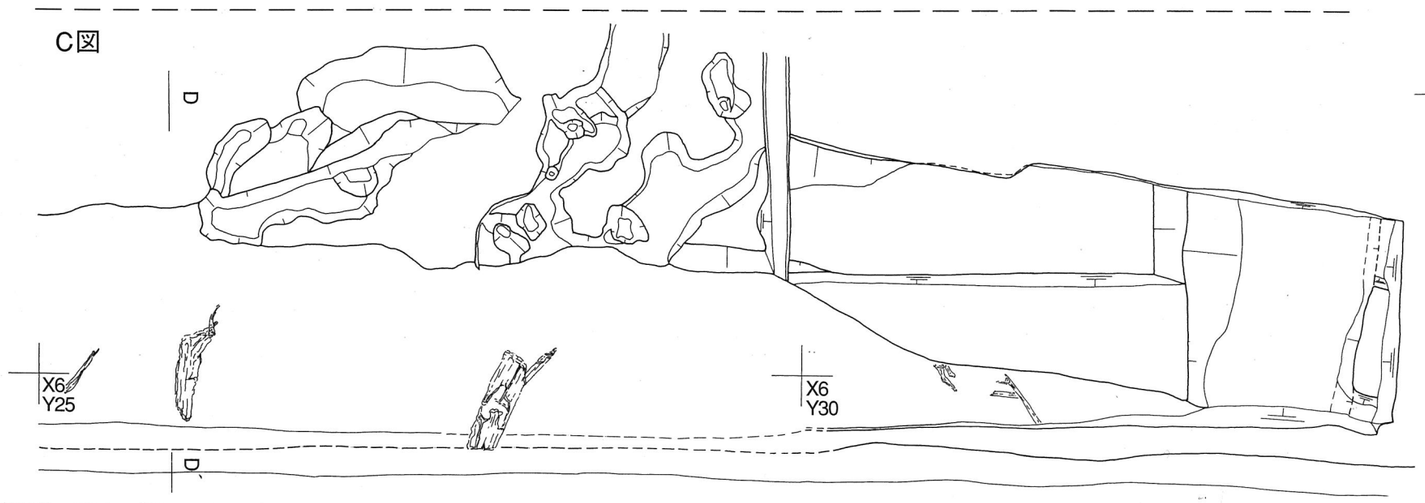
①黒褐色土(10YR3/2)しまり弱、粘性やや有り、炭化物、灰黄褐色土(10YR4/2)粘質土わずかに混在
②にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりやや有り、粘性弱、地山の砂質土
③試掘トレンチの埋土
④黒色土(10YR2/1)しまり弱、粘性やや強、木炭細片・腐植物やや多く混在(SD04覆土)
⑤黒褐色土(10YR3/2)しまりやや強、粘性なし、炭化物やや多く混在、砂質土にわずかに粘性土混在

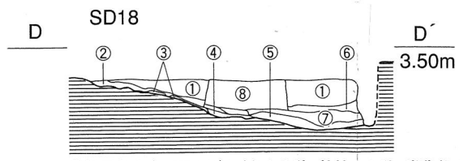


①黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強、粘性やや有り、褐色粘質土ブロック(Ⅲ層土)混在、(上層遺構覆土)
②黒褐色土(7.5YR3/1)しまりやや有り、粘性弱、砂質土主体、砂粒③層より細かい、③層より粘性あり
③黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや有り、粘性なし、砂質層、腐植物多量に混在(種子を含む)
④灰色土(10Y5/1) しまりやや強、粘性強、粘土地山
⑤暗灰色土(N3/0) しまりなし、粘性強、④層下の黒褐色土層
⑥灰色土(5Y4/1) しまりやや有り、粘性強、④層に似る、腐植物わずかに混在



①黒褐色土(7.5YR3/1)しまり強、粘性強、粘性土主体
②黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強、粘性強、炭化物ごくわずかに混在、粘質土主体
③黒褐色土(10YR3/1) しまり弱、粘性弱、砂質土主体、腐植物・木の実・種子混在
④黒褐色土(10YR3/2) しまり弱、粘性有り、③層と類似、③層より粘性有り、縄文土器出土層位
⑤黄灰色土(2.5Y4/1) しまり弱、粘性強、地山に類似
⑥黒褐色土(7.5YR3/1)しまり弱、粘性強、粘土
⑦試掘トレンチ跡

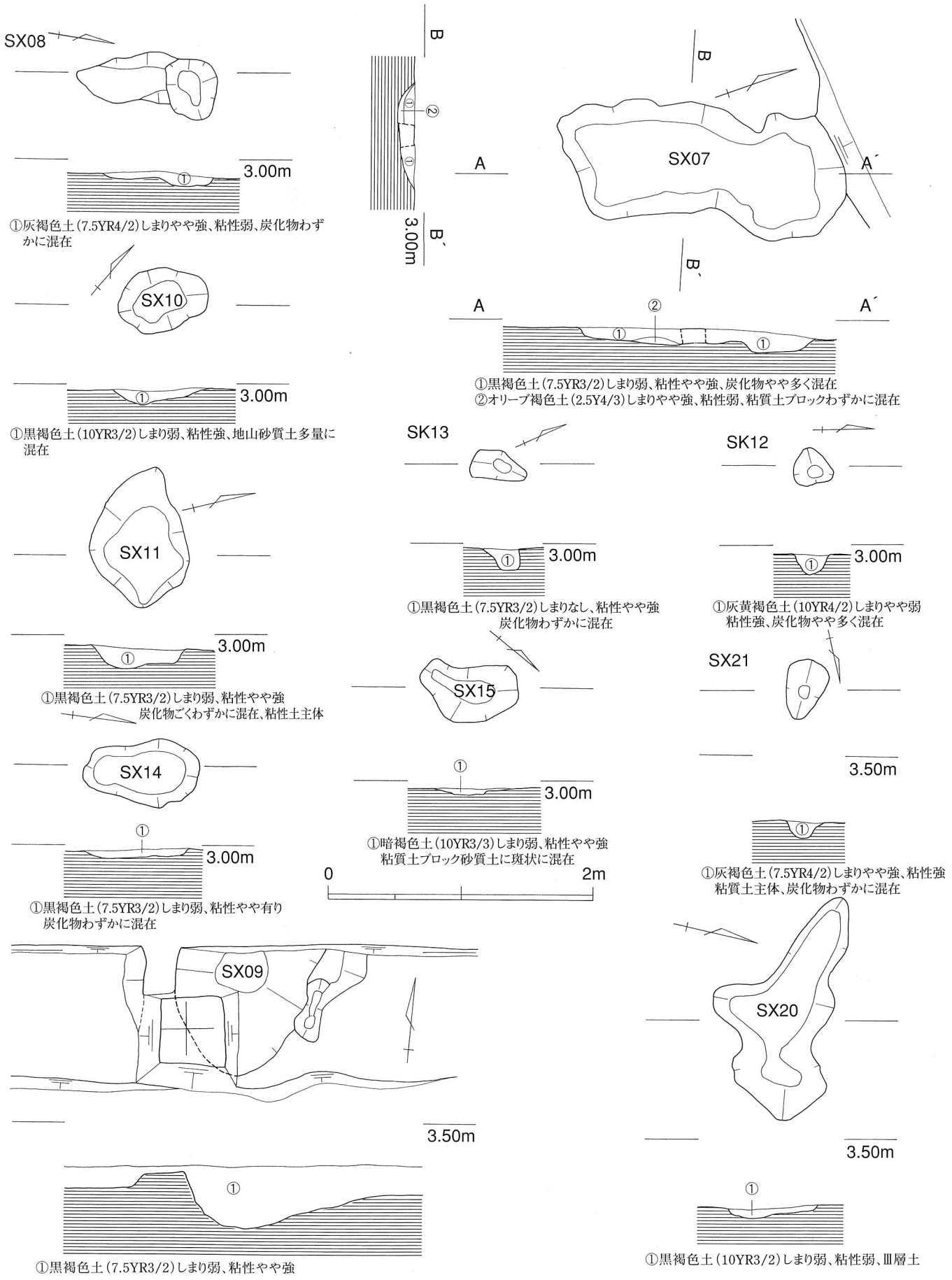




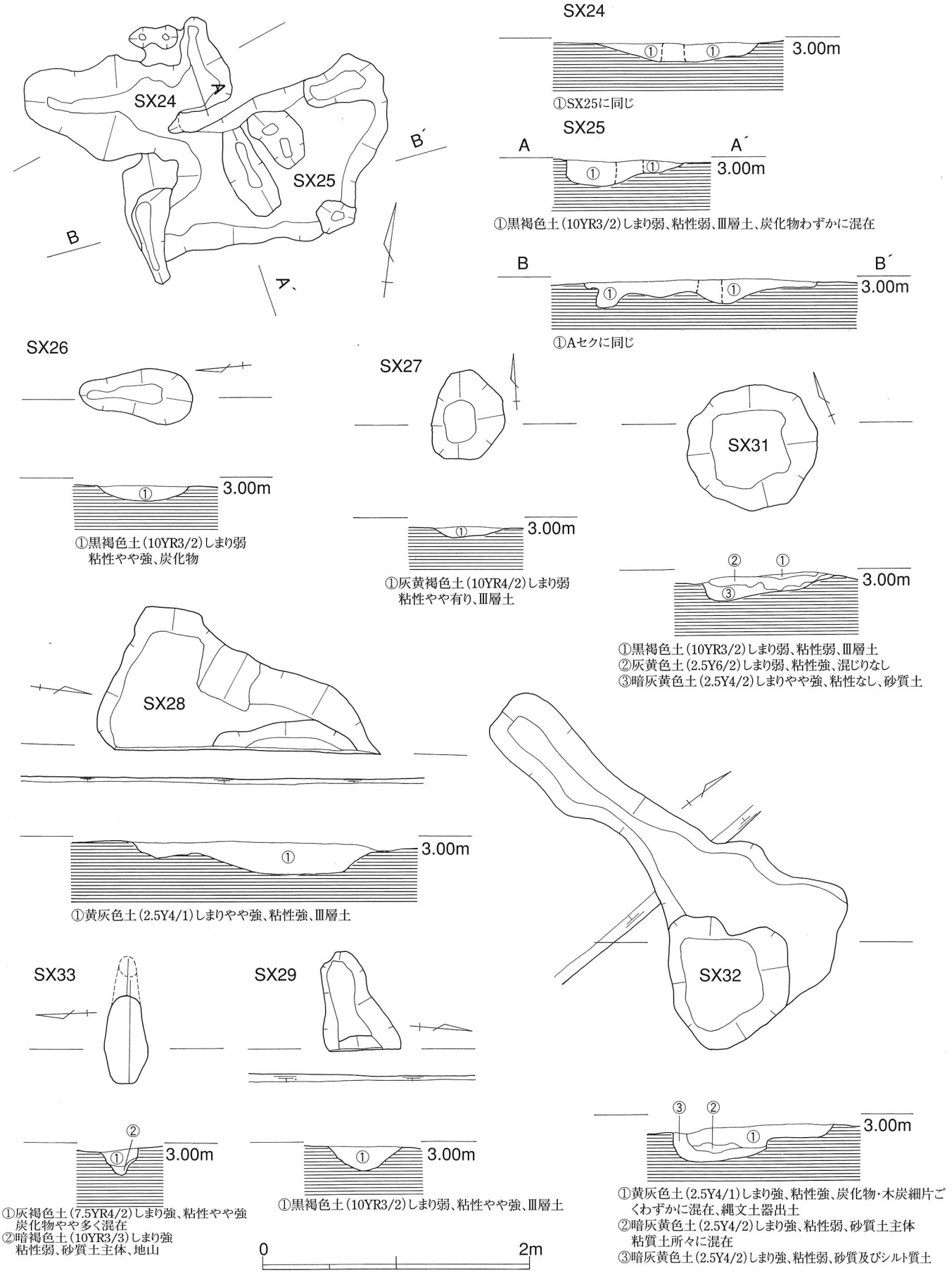
①褐灰色土(10YR4/1)しまりやや強、粘性やや強、炭化物やや多く混在、粘質土主体
②黄灰色土(2.5Y4/1) しまり強、粘性強、粘質土主体、炭化物わずかに混在
③にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや有り、粘性なし、砂質土、地山土
④黄灰色土(2.5Y4/1) しまり強、粘性なし、細かい砂・木炭片混在
⑤黒褐色土(2.5Y3/1) しまり弱、粘性やや強、炭化物多量に混在、粘質土主体、縄文土器出土層
⑥黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや強、粘性なし、砂質土主体、腐植物・目の荒い砂やや多く混在
⑦黒褐色土(10YR3/1)しまり弱、粘性弱、炭化した樹木片、腐植物
黒褐色土(2.5Y3/1) 粘質土多量に混在、砂質土主体
⑧試掘トレンチ跡

0 4m

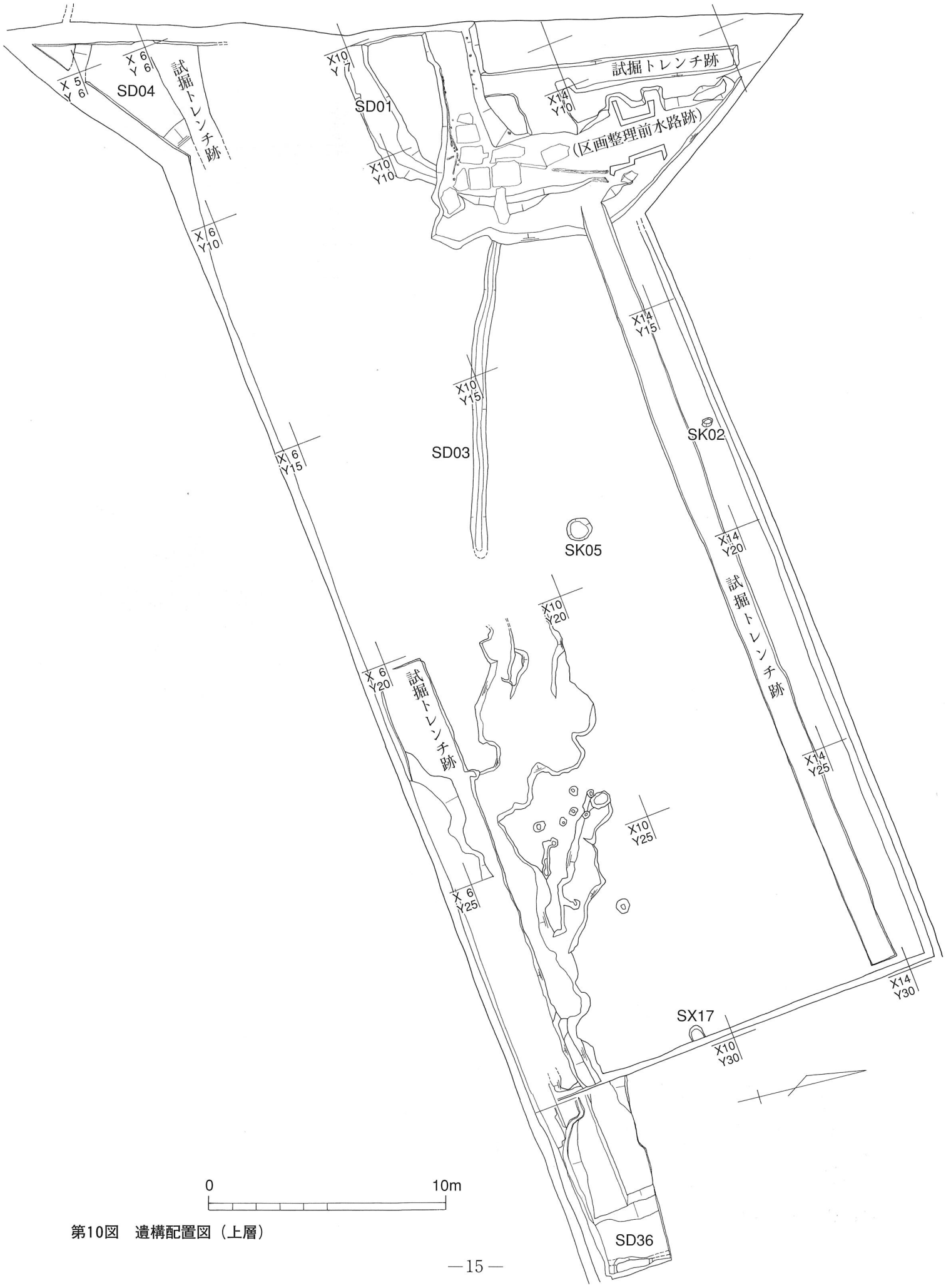
第７図　SD04（SX06,SD18）



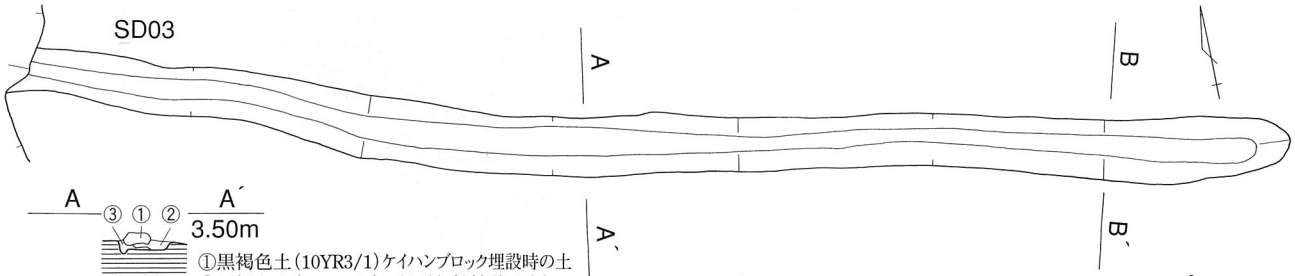
第8図　SX07～11・14・15・20・21,SK12・13

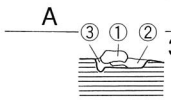


第9図　SX25～29・31～33

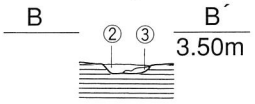


第10図　遺構配置図（上層）

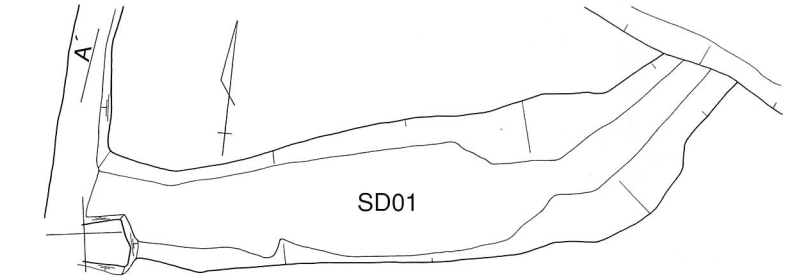


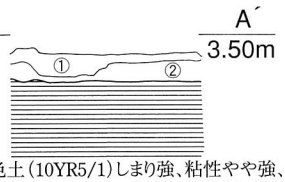


①黒褐色土(10YR3/1)ケイハンブロック埋設時の土
②黒褐色土(10YR3/1)しまり弱、粘性強、同上
③黒褐色土(2.5Y3/1) しまり弱、粘性強、同上

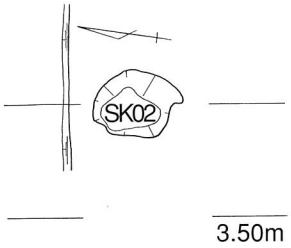


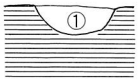
Aセクに同じ



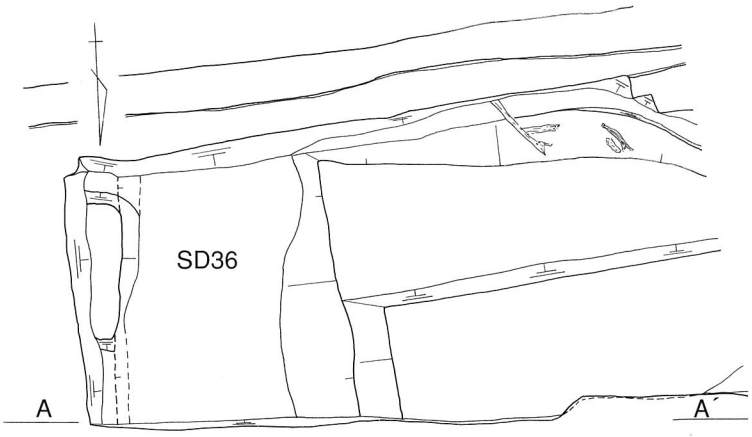


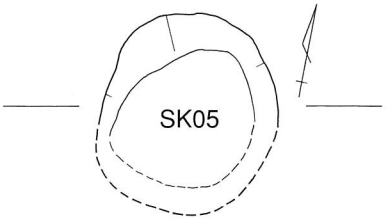
①褐灰色土(10YR5/1)しまり強、粘性やや強、炭化物ごくわずかに混在(SD01の埋土)
②黒褐色土(10YR3/2)しまり弱、粘性弱、基本層序のⅢ層

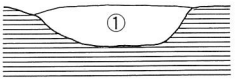




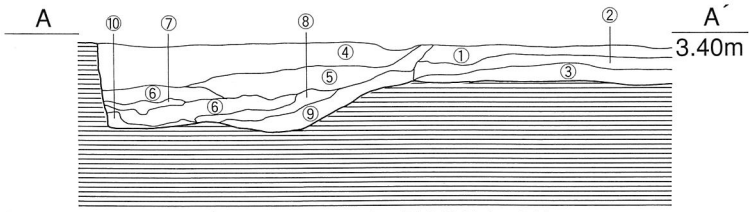
①黒褐色土(10YR3/1)しまり弱、粘性強
灰黄褐色土(10YR4/2)地山土ブロック混在

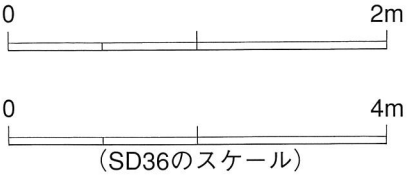






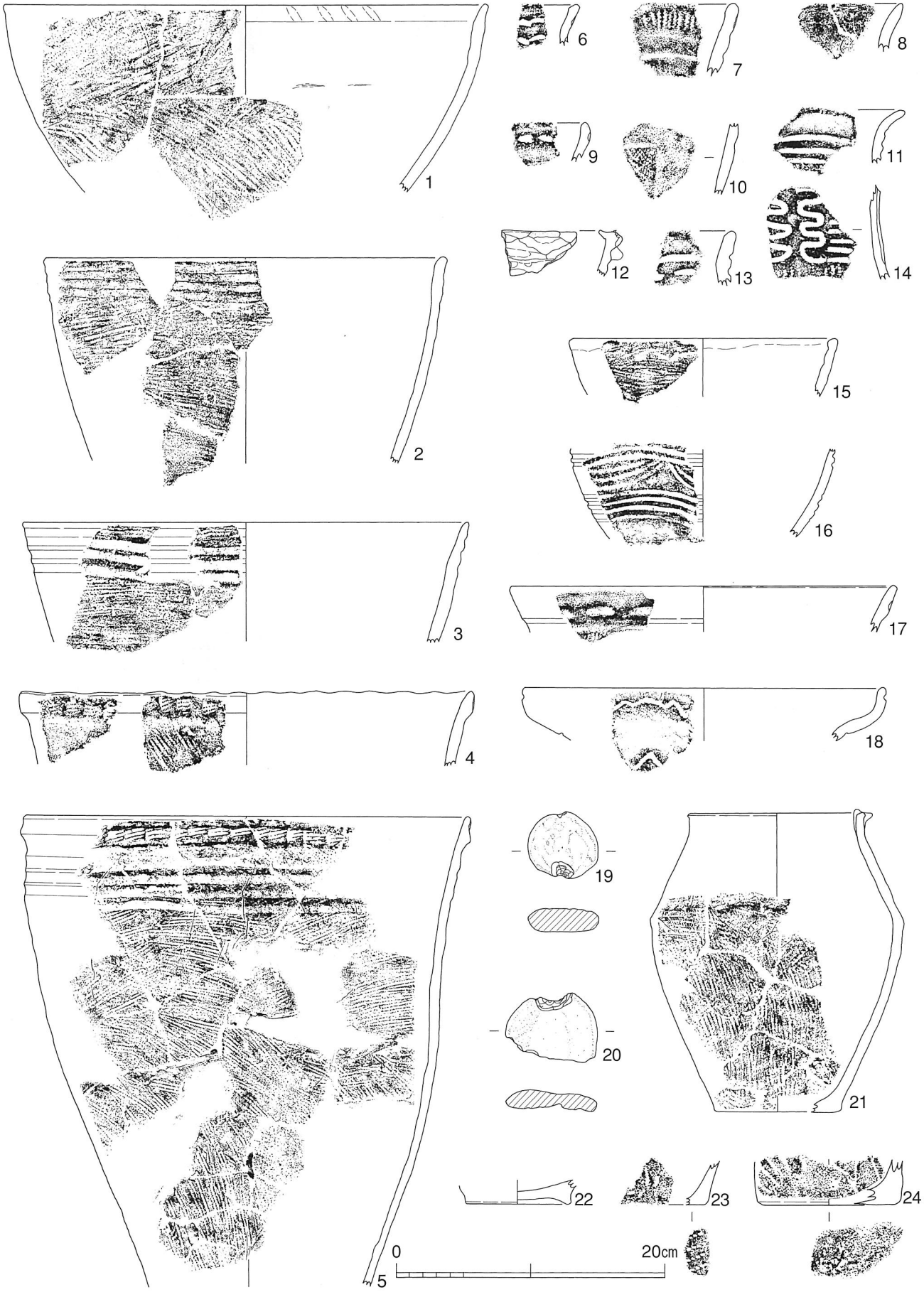
①黒褐色土(10YR3/1)しまりやや強、粘性強
灰黄褐色土(10YR4/2)地山土ブロックやや多く混在



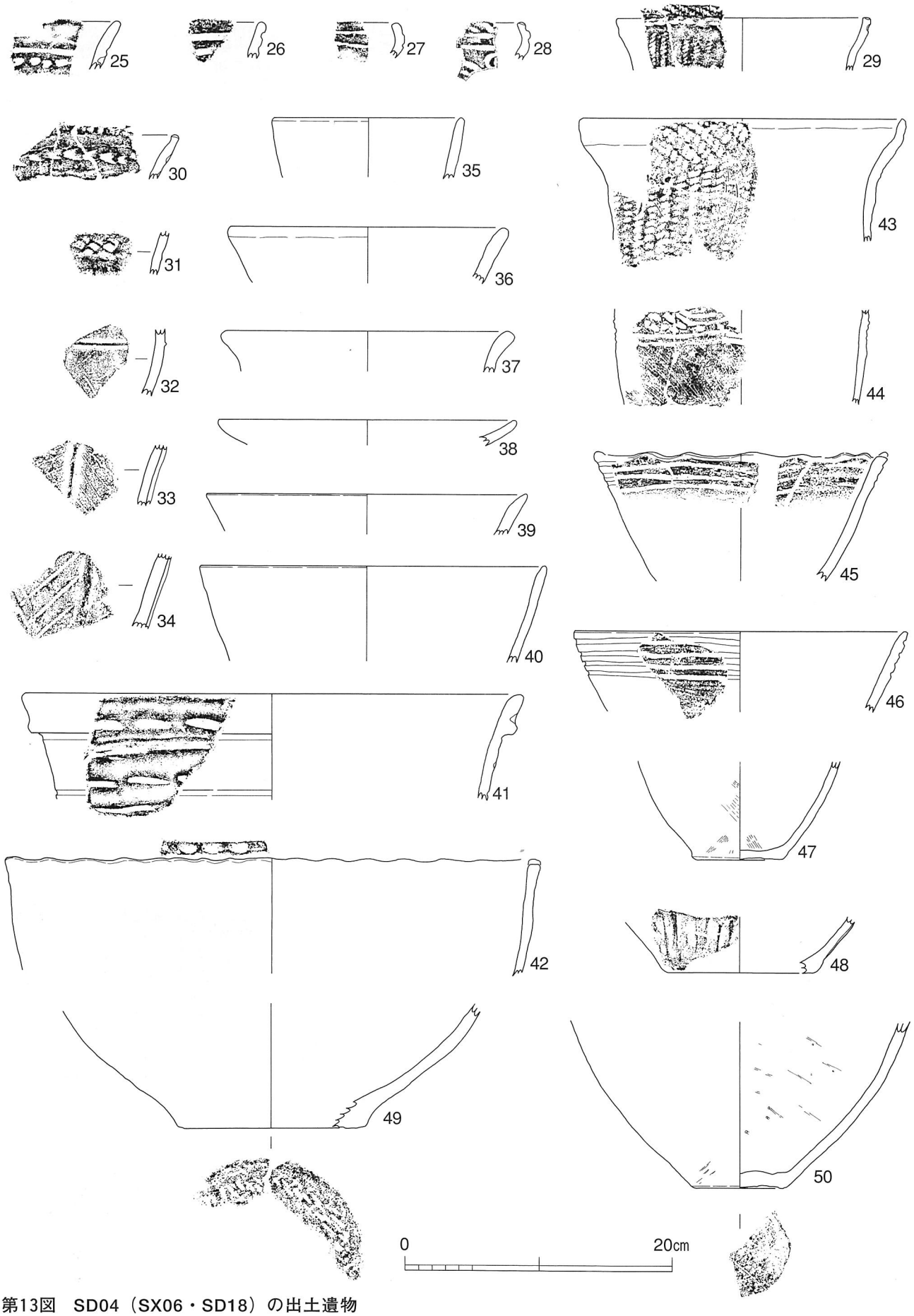


① 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強、粘性弱、Ⅱ層土②層土の混在
② 灰褐色土(7.5YR4/2)しまり強、粘性強、粘土
③ 暗褐色土(10YR3/3) しまり弱、粘性やや有り、砂質土主体わずかに粘性土混在
④ 黒褐色土(2.5YR3/1)しまり強、粘性弱、砂質土主体、区画整理時の埋土(耕作土)
⑤ 黒褐色土(10YR3/1) しまり弱、粘性やや強、小樹木片混在、東側で小石などの砂利混在、②層土の混じりなし、粘性土主体
⑥ 黒褐色土(2.5YR3/1)しまり弱、粘性やや有り、砂質土主体、目の細い砂粒層に粘性土混在
⑥´黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや強、粘性弱、φ5mm以下の小石と⑤層の粘性土混在
⑦ 黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや強、粘性なし、φ10～4mm程度の小砂利層
⑧ 黒褐色土(2.5Y3/1) しまりやや強、粘性なし、φ10mm以下の小石砂利・砂層
⑨ 黒褐色土(10YR3/1) しまり弱、粘性やや強、礫混じりなし、木炭細片・炭化物わずかに混在
⑩ 黒褐色土(10YR3/1) ⑨と同質φ5mm以下の砂わずかに混在

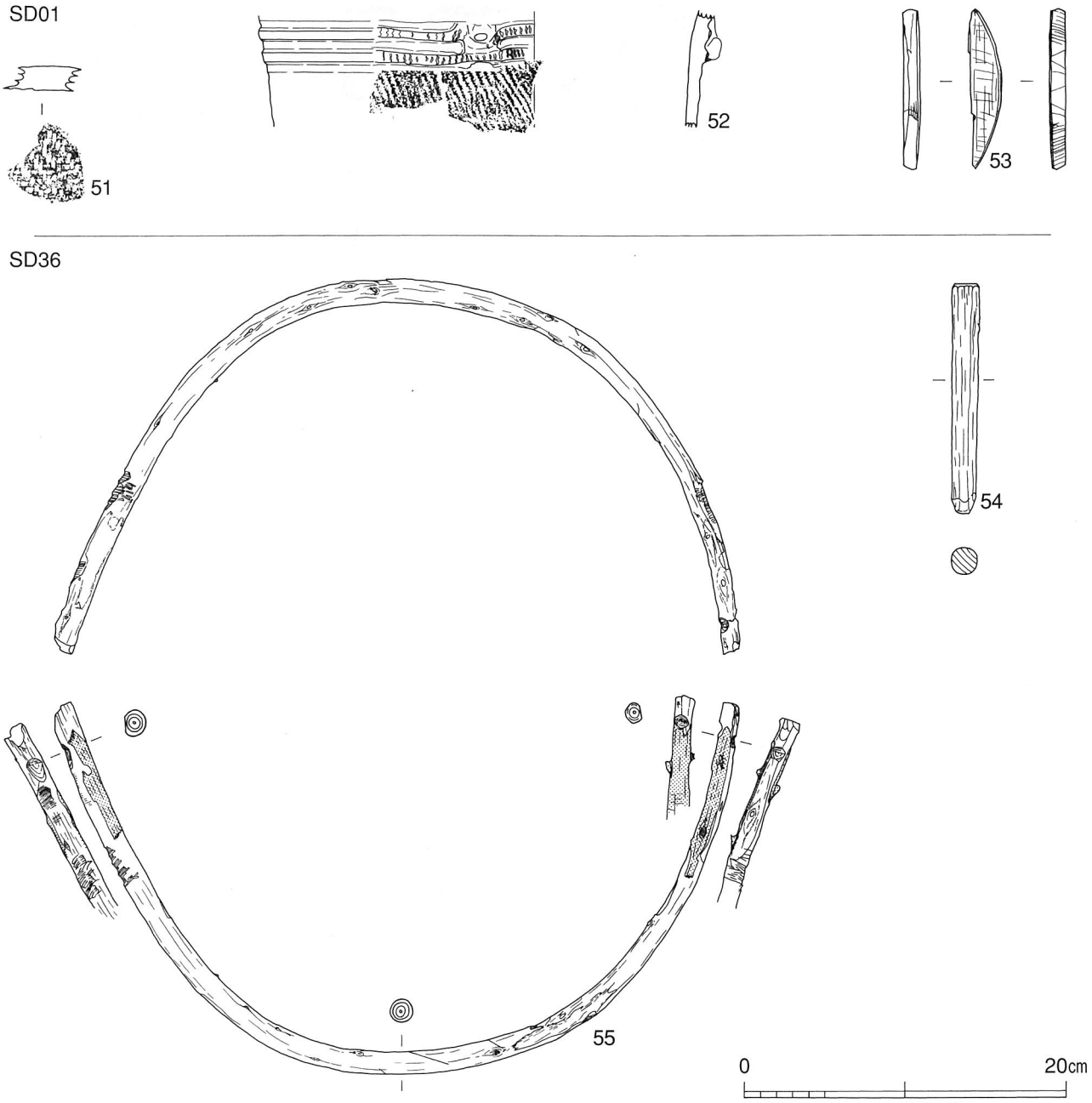
第11図　上層の遺構（SD01・03・36,SK02・03）



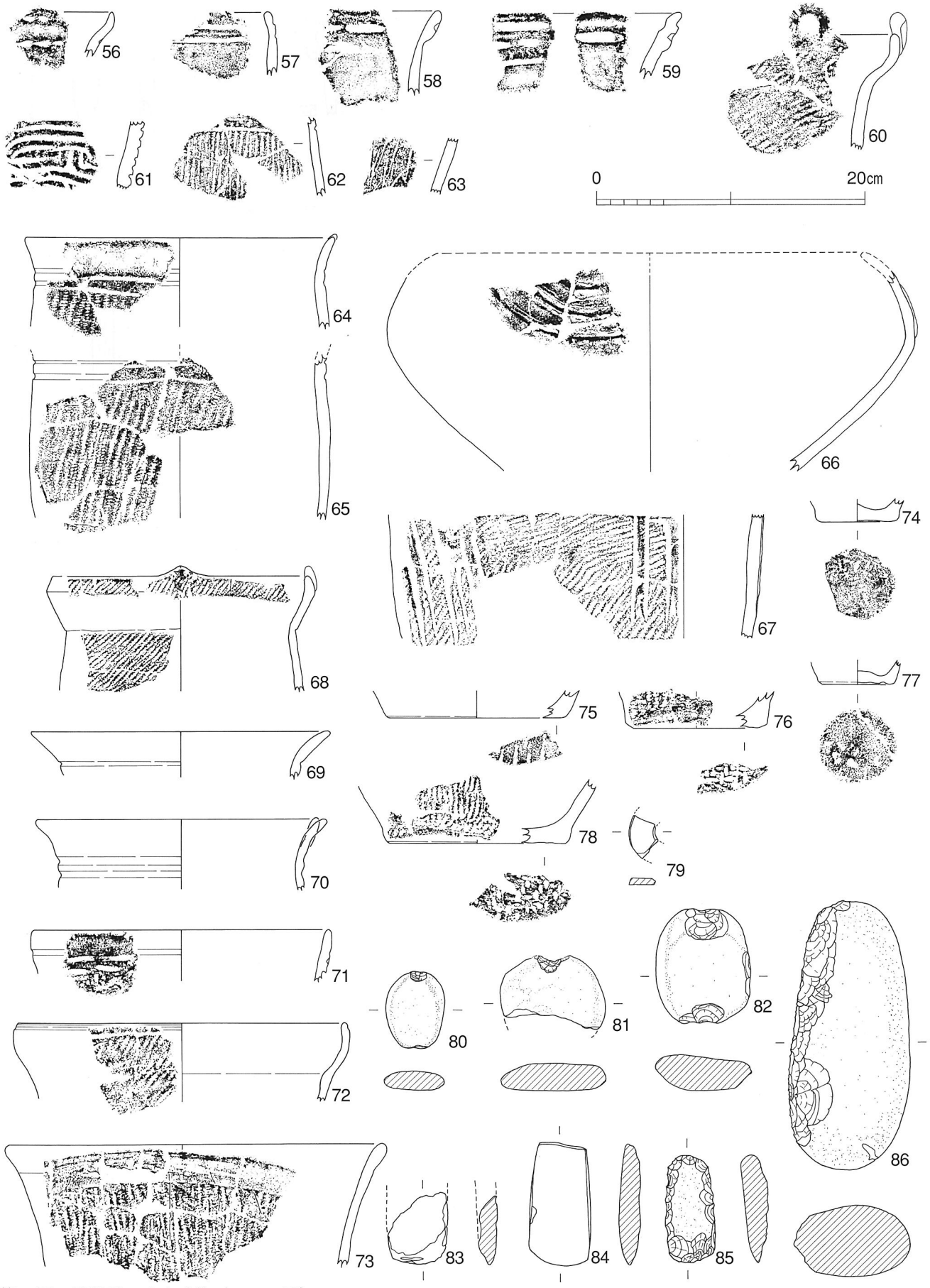
第12図　SD04（SX06・SD18）の出土遺物



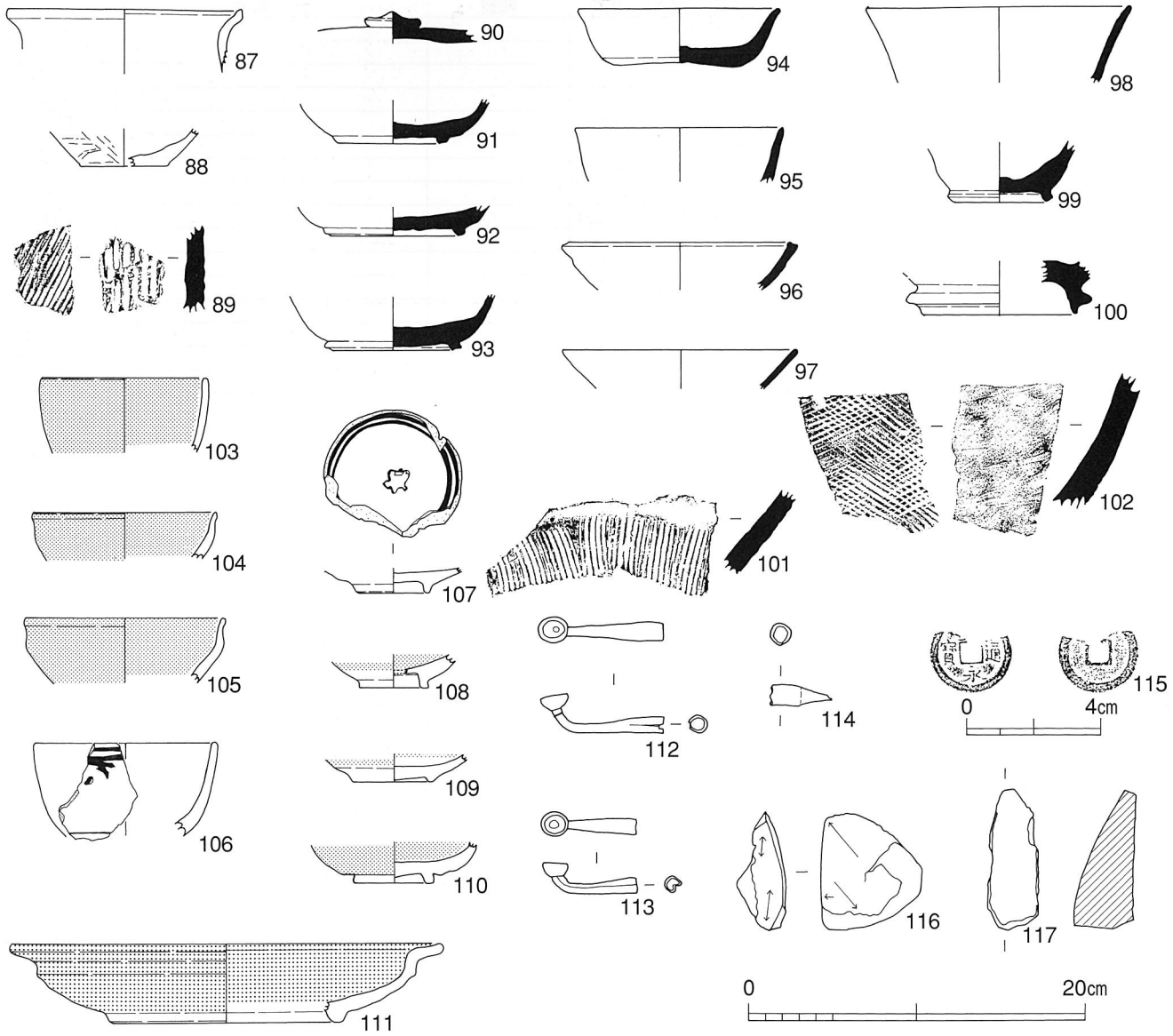
第13図　SD04（SX06・SD18）の出土遺物



第14図　上層の遺構出土遺物



第15図　遺構外の出土遺物（２・３層）



第16図　遺構外の出土遺物（２・３層）

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径	器高	底径	時期	備考	残存量
3図	1	1トレンチ	縄文土器							小破片
	2	1トレンチ	縄文土器	深鉢						小破片
	3	1トレンチ	縄文土器	深鉢						小破片
	4	1トレンチ	縄文土器							小破片
	5	1トレンチ	縄文土器	底部			8.6			底完存
	6	3トレンチ	縄文土器	底部			10.8			小破片
	7	1トレンチ	縄文土器	底部			12.2			小破片
	8	1トレンチ	石器	磨製石斧						
	9	5トレンチ	石器	打製石斧	長さ16.5	幅8.0	厚さ3.0			ほぼ完存
	10	3トレンチ	須恵器		10.2					小破片
	11	6トレンチ	須恵器	坏			8.4			底1/3
	12	3トレンチ	須恵器	坏	12.4	3.1	(8.7)			1/4
	13	6トレンチ	土師器	坏	9.6					口1/8
	14	5トレンチ					3.0			底1/2
	15	6トレンチ		土錘	胴径3.0	3.3			内外面鉄釉	1/2
	16	6トレンチ		キセル						
12図	1	(SD18)	縄文土器	鉢	35.6			下野式	口縁部裏面に指圧痕が見られる。表面は全面に条痕調整。口外面煤付着	口1/5
	2	(SD18)	縄文土器	深鉢	29.4			下野式	口縁部に指押さえによる微隆帯を施し、頸部から胴部にかけては横方向に全面条痕	口1/8
	3	(SD18)	縄文土器	深鉢	33.0			下野式	口縁部に指押さえによる微隆帯を施し、頸部から胴部にかけては横方向に全面条痕。口外面煤付着	口1/8
	4	(SD18)	縄文土器	深鉢	33.4			下野式	口縁部をやや肥厚させ、貝殻腹縁による押引文を施す。頸部から胴部にかけては横方向に全面条痕	小破片
	5	(SD18)	縄文土器	深鉢	32.7			下野式	4と同様、口縁部をやや肥厚させ貝殻腹縁による押引文を施す。頸部には指押さえによる微隆帯を施し、胴部は横位・斜位・縦位の全面条痕を施す。 内外面一部煤付着	
	6	SD04	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部から頸部にかけて押引文を施す。 口外面一部煤付着	小破片
	7	SD04	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に貝殻腹縁文を施す。 頸部には沈線文を施す。	小破片
	8	SD04	縄文土器	浅鉢？				前田式～気屋式	特に施文はなし。	小破片
	9	SD04	縄文土器	深鉢？				前田式～気屋式	口縁部に押引文を施す。	小破片
	10	SD04	縄文土器	深鉢				気屋式期	胴部に沈線内部に磨消縄文を施す。	小破片
	11	(SD18)	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部は無文帯で、頸部に沈線文を施す。14と同一個体か？	小破片
	12	(SD18)	縄文土器	深鉢？				後期前葉	口縁端部を粘土帯で折り返し、口縁部には粘土帯で貼付をおこなう。	小破片
	13	SD04	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部無文帯で、頸部に押引文を施す。	小破片
	14	(SD18)	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	頸部に蛇行沈線文及び平行沈線文を施す。11と同一個体か？	小破片
	15	(SD18)	縄文土器	浅鉢	19.2			中屋式～下野式期	裏面に調整痕が残存。表面は全面条痕調整。	小破片
	16	(SD18)	縄文土器	浅鉢				中屋式	平行沈線文の中に木葉文を施す。	小破片
	17	SD04	縄文土器	深鉢	28.4			前田式～気屋式	口縁部に押し引き列点文を施し、頸部には沈線文を施す。	口1/12
	18	SD04	縄文土器	深鉢	26.4			前田式～気屋式	口縁部及び頸部に波状沈線文を施す。	小破片
	19	SD04	石器	石錘					両欠石錘。	完形
	20	SD04	石器	石錘					両欠石錘。	1/4
	21	(SD18)	縄文土器	深鉢	12.8	22.3	9.3	下野式期	口唇部に粘土帯を貼り付け、隆起させる。口縁部から頸部にかけては摩滅が著しいため不明瞭だが、特に施文はない。胴部は条痕調整。器形としては、かなり特徴がある。口外面・体下半内面煤付着	1/7
	22	SD04	縄文土器	底部			7.4	晩期	かなり摩滅が著しい。	底完存
	23	SD04	縄文土器	底部				後期	底辺周辺まで縄文を施す。底辺に網代圧痕が残存する。	小破片
	24	SD04	縄文土器	底部			10.5	中期～後期	底部周辺まで縄文を施す。底辺には網代圧痕が残存する。	底1/5
13図	25	SD04	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部は無文帯で、頸部に平行沈線文内に列点文を施す。	小破片
	26	SD04	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部をやや肥厚させ、頸部に平行沈線文を施す。	小破片
	27	SD04	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部に平行沈線文を施す。	小破片
	28	(SD18)	縄文土器	深鉢？				気屋式	口縁端部に刻みを施し、口縁部に半隆起線文を巡らす。頸部には沈線文を施す。	小破片

第２表　出土遺物観察表

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径	器高	底径	時期	備考	残存量
13図	29	SD04	縄文土器	深鉢	18.2			気屋式	口縁端部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角押引文、頸部はナデによる無文帯を成形し、胴部はRLの縦走縄文を施す。	口1/10
	30	(SD18)	縄文土器	深鉢				気屋式	口唇部をやや肥厚させ、刻みを施す。頸部に連続三角刺突文を施す。	小破片
	31	(SD18)	縄文土器	深鉢？				前期末 朝日下層式	微隆帯による浮線文を格子目文状に施す。摩滅が著しい。	小破片
	32	SD04	縄文土器	鉢？				前田式～気屋式	胴部に微隆起線文を巡らす。沈線文を施す。	小破片
	33	SD04	縄文土器	深鉢				串田新式	微隆起線文を縦位に施し、木葉状文を施す。	小破片
	34	SD04	縄文土器	深鉢				串田新式	33と同様、微隆起線文を縦位に施し、木葉状文を施す。	小破片
	35	SD04	縄文土器	深鉢もしくは浅鉢	13.8			後期前葉～晩期	粗製。特に施文はない。	小破片
	36	SD04	縄文土器	深鉢もしくは浅鉢	24.6			後期前葉～晩期	粗製。特に施文はない。 口外面煤付着	小破片
	37	SD04	縄文土器	深鉢もしくは浅鉢	(20.8)			後期前葉～晩期	粗製。特に施文はない。	小破片
	38	SD04	縄文土器	深鉢もしくは浅鉢	21.8			後期前葉～晩期	粗製。特に施文はない。	小破片
	39	SD04	縄文土器	深鉢もしくは浅鉢	23.8			後期前葉～晩期	粗製。特に施文はない。	小破片
	40	SD04	縄文土器	深鉢もしくは浅鉢	25.8			後期前葉～晩期	粗製。特に施文はない。 口外面煤付着	口1/12
	41	(SD18)	縄文土器	深鉢	37.0			前田式	口縁部を肥厚させ、横位に雨滴状列点文を施す。頸部には沈線文を施し、その内部に横位の雨滴状列点文を施す。 内外面器面あれ	口1/4
	42	(SD18)	縄文土器	深鉢	39.2			下野式期	粗製深鉢。口唇部に指圧し、波状口縁を成形。その他特に施文はなし。 口外面煤付着	口1/12
	43	(SD18)	縄文土器	深鉢	23.8			気屋式	粗製深鉢。口縁部はRLの斜縄文を施し、頸部から胴部にかけてはRLの縦走縄文を施す。	口1/8
	44	(SD18)	縄文土器	深鉢				中屋式以降	頸部に沈線文及び刺突文を施す。胴部は条痕調整で、内面も条痕調整。	小破片
	45	(SD18)	縄文土器	浅鉢	21.7			中屋式以降	口縁部を指圧により波状口縁部を成形し、口縁部に沈線文を巡らす。	口1/3
	46	(SD18)	縄文土器	浅鉢	24.7			中屋式以降	口縁部に多条の沈線文を巡らす。	小破片
	47	(SD18)	縄文土器	底部			6.8	晩期	表裏面とも条痕調整。底内面煤付着	底完存
	48	(SD18)	縄文土器	底部			11.4	串田新式～気屋式	底辺周辺まで微隆帯を縦位に施す。	小破片
	49	(SD18)	縄文土器	底部			14	後期以降	胴部には特に施文はなく、底辺に網代圧痕が残存する。内外面器面あれ	体下半1/8
	50	(SD18)	縄文土器	底部			7.0	後期以降	胴部は特に施文はなく、調整痕が表裏とも残存する。底辺には網代圧痕が残存する。 体下半内外面煤付着	体下半1/2
14図	51	SD01	縄文土器	底部				後期以降？	網代圧痕が残存。	小破片
	52	SD01	縄文土器	深鉢				串田新式	頸部に半隆起線文を施し、ブリッジ状の隆帯を施す。その上に貝殻腹縁文を施し、胴部はRLの斜位状文を施す。	小破片
	53	SD01	木製品		長さ10.0	幅1.8	厚さ1.0		曲げ物の底か。	
	54	SD36	木製品		長さ14.3	φ1.6				
	55	SD36	木製品						短弓状木製品。弭	
15図	56	X9Y11 3層	縄文土器	深鉢				気屋式	口縁部及び頸部に三角押引文を施す。	小破片
	57	X10Y12 3層	縄文土器	深鉢				串田新式～気屋式	口縁部に沈線文を巡らす。	小破片
	58	X9Y9 3層	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	口縁部をやや肥厚させ、押引文を施す。	小破片
	59	X9Y19 2層	縄文土器	深鉢				串田新式	口縁部に隆帯を貼り付け、その上に押引文、貝殻腹縁文を施す。裏面には口縁部付近に沈線文を施す。	小破片
	60	X8Y10	縄文土器	深鉢				串田新式	口唇部に突起を貼り付ける。全面にLRの斜縄文を施す。	小破片
	61	X10Y9 3層	縄文土器	深鉢				気屋式	胴部に多条の半隆起線文を施す。	小破片
	62	X10Y12 3層	縄文土器	深鉢				気屋式	頸部に沈線文を巡らし、胴部には縦走縄文を施す。	小破片
	63	X11Y9	縄文土器	深鉢？				後期後葉以降	全面に条痕調整。	小破片
	64	X9Y12 3層	縄文土器	深鉢	22.7			前田式～気屋式	口縁部無文帯で、頸部に沈線文を2条施す。胴部は縦走縄文を施す。 65と同一個体	口1/8
	65	X9Y12	縄文土器	深鉢				前田式～気屋式	頸部に2条の沈線文を施し、胴部には縦走縄文を施す。64と同一個体	小破片

口：口縁部　底：底部　体：体部

図版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径	器高	底径	時期	備考	残存量
15図	66	X8Y19 3層	縄文土器	鉢				気屋式並行	口縁部から頸部にかけて微隆帯を渦巻状に施す。	小破片
	67	X7Y13 2層	縄文土器	深鉢				上山田･天神山式	LRの縄文地に縦位の半隆起線文を施す。	小破片
	68	X8Y6	縄文土器	深鉢	19.0			上山田･天神山式	口唇部に突起を貼り付け、口縁部及び胴部にLRの斜縄文を施す。頸部は無文帯。	口1/4
	69	X10Y12 3層	縄文土器	深鉢	22.0			前田式～気屋式	頸部に沈線文を巡らす以外特に施文なし。内外面まめつ	口1/6
	70	X9Y12	縄文土器	深鉢	21.2			前田式～気屋式	69と同様、頸部に沈線文を巡らす以外特に施文なし。内外面まめつ	口1/8
	71	X8Y19 3層	縄文土器	鉢	22.0			前田式	口縁部無文帯で、頸部に押引列点文を2連施す。	口1/12
	72	X8Y10	縄文土器	深鉢	24.2			気屋式	粗製。口縁端部に半隆起線文を施し、口縁部から胴部にかけてLRの斜縄文を施す。	小破片
	73	X11Y9	縄文土器	深鉢	27.6			気屋式	粗製。口縁部無文帯で、頸部から胴部にかけて縦走縄文を施す。	口1/3
	74	X10Y26 2層	縄文土器	底部			6.0	後期	すべて後期以降。それぞれ底部底辺に網代圧痕が残存する。	底7/8
	75	X9Y8	縄文土器	底部			13.3	後期	すべて後期以降。それぞれ底部底辺に網代圧痕が残存する。	底小破片
	76	X8Y19 3層	縄文土器	底部			10.4	後期	すべて後期以降。それぞれ底部底辺に網代圧痕が残存する。	底小破片
	77	X7Y18 3層	縄文土器	底部			5.7	後期	すべて後期以降。それぞれ底部底辺に網代圧痕が残存する。	底完存
	78	X11Y7 3層	縄文土器	底部			13.5	後期	すべて後期以降。それぞれ底部底辺に網代圧痕が残存する。	底1/4
	79	X8Y8	石製品	抉状耳飾						
	80	X9Y9 2層	石器	両欠石錘	長さ5.6	幅4.4	厚さ1.4			完形
	81	X10Y11 3層	石器	両欠石錘		幅7.8	厚さ2.1			1/2
	82	X9Y7	石器	両欠石錘	長さ8.5	幅7.1	厚さ2.5			ほぼ完形
	83	X7～10Y20	石器	磨製石斧		幅4.4	厚さ1.3			
	84	X11Y26 2層	石器	磨製石斧	長さ9.1	幅4.4	厚さ1.6			完形
	85	X9Y8	石器	打製石斧	長さ8.0	幅3.7	厚さ1.9			ほぼ完形
	86	X7Y6	石器	打製石斧	長さ20.0	幅9.0	厚さ5.3		86は片側のみ加工。	完形
16図	87	SD19	土師器	甕	13.8				口内外面煤付着	口1/12
	88	SD19	土師器	甕			5.0		底外面削り	底1/3
	89	X13Y28 2層	須恵器							小破片
	90	X12Y27 2層	須恵器	坏蓋						小破片
	91	X9～10 Y20･22 2層	須恵器	坏			5.9		焼成不良　歪み	底完存
	92	X9Y15	須恵器	坏			7.0		焼成不良	底完存
	93	SD18	須恵器	坏			7.0			底1/3
	94	X8Y8	須恵器	坏	11.9	3.4			底外面ヘラキリ	1/3
	95	X8Y29・30 2層	須恵器	坏	12.3					口1/8
	96	X9Y7	須恵器	鉢	13.1				口内面釉	口1/12
	97	X9Y27	須恵器	坏	13.8					口1/12
	98	X8Y6 X9Y8	須恵器		15.6					口1/6
	99	X13Y23 2層	須恵器				5.3		底外面ロクロ削り　底内面自然釉	底完存
	100	X14Y18 2層	須恵器				8.9		外面自然釉	底1/6
	101	X9Y15	珠洲	片口鉢						小破片
	102	X17Y11	珠洲	甕						小破片
	103	X13Y9 3層			9.8				内外面鉄釉	口1/6
	104	X13Y23 2層		天目茶碗	10.8				内外面鉄釉	口1/8
	105	X9Y19 2層		天目茶碗	11.7				内外面鉄釉	口1/12
	106	X7～10Y20 ～24 2層			10.6				内外面釉	口1/12
	107	X9Y12	陶磁器				3.95		梅鉢文様の底部　内外面釉	底完存
	108	X9Y19 2層					3.9		内外面鉄釉	底1/4
	109	X7～10Y20 ～24 2層	越中瀬戸	皿			4.3		内外面一部鉄釉	底1/2
	110	X11Y13 2層					4.6		内外面鉄釉	底完存
	111	X11Y11 2層			25.4	4.7	13.4		内外面釉	1/8
	112	排土		キセル						
	113	X9Y15		キセル						
	114	X9Y15		キセル					キセルの吸い口か	
	115	排土		古銭					「寛永通宝」	
	116	X17Y11	石器	砥石						
	117	X11Y8	石器	砥石						

口：口縁部　　底：底部　　体：体部

針原西遺跡上空

調査前近景（西から）

図版 2

試掘調査風景（1 トレンチ）

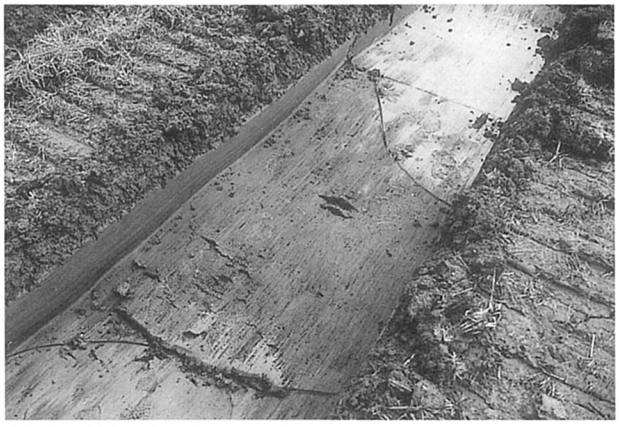
1 トレンチ西端の土層

調査対象地東端（東から）

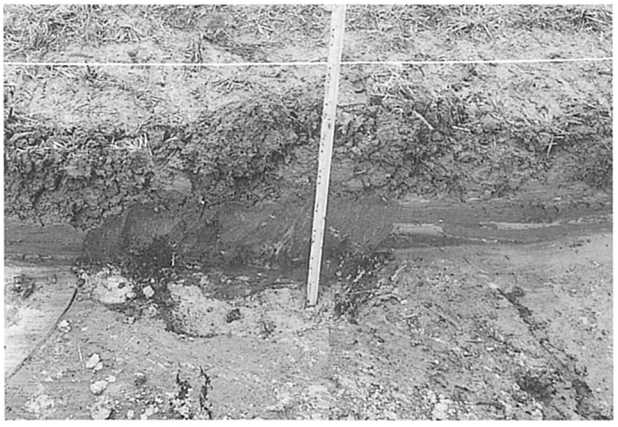
試掘調査風景（7 トレンチ）

試掘後近景（東から）

土器出土状況（7 トレンチ東端）



溝検出状況（8 トレンチ）



8 トレンチの土層

X6～15　Y5～19区：下層（東から）

X6～15　Y20～30区：下層（東から）

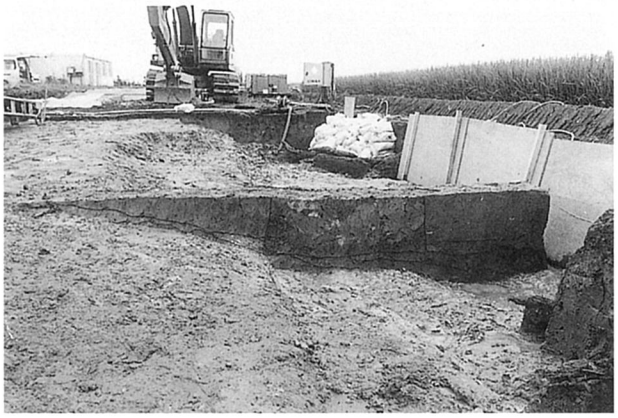
図版 4

SD04（SX06）北東から

SD04（SD18）東から

SD04（SX06）B－B′の土層

SD04（SX06）

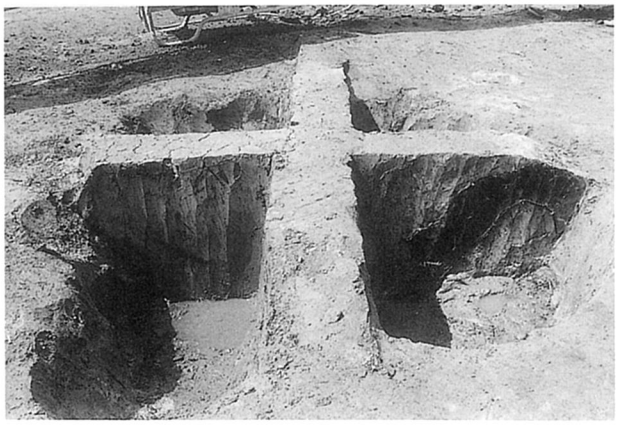


SD04（SD18）D－D′の土層

SD04（SD18）縄文土器出土状況

SX30

SD04 縄文土器出土状況

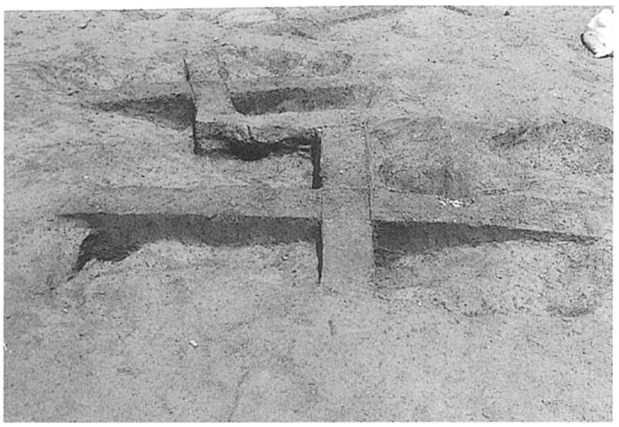


SD30の土層

SD34

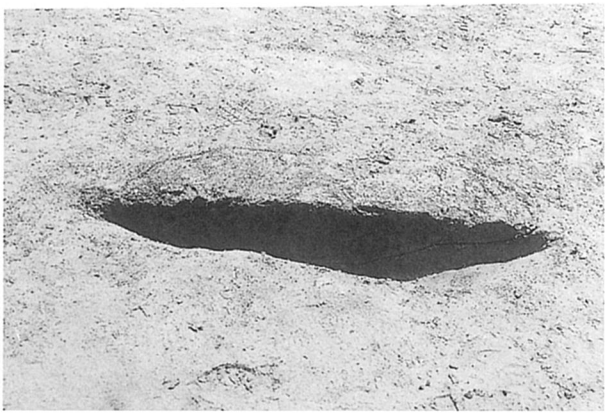
図版 6

SX24・25



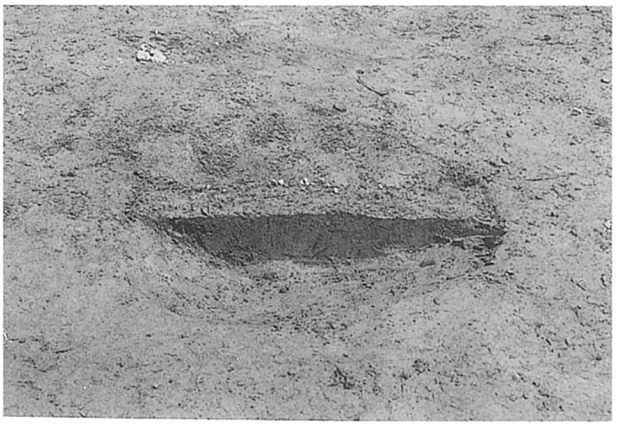
SX25の土層

SX26



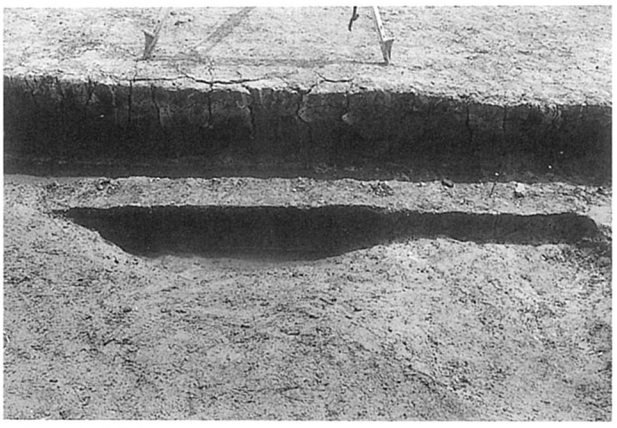
SX26の土層

SX27



SX27の土層

SX28

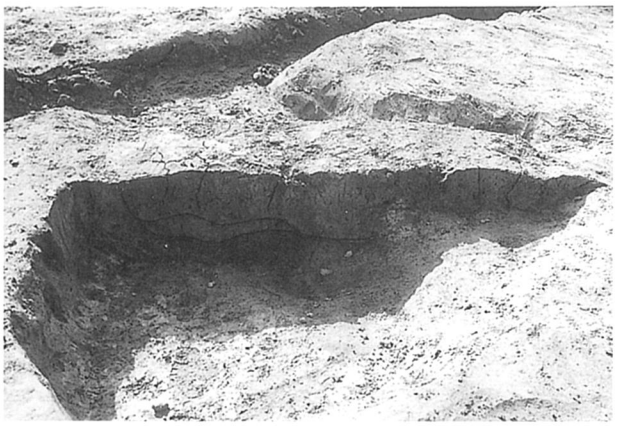


SX28の土層

発掘調査の様子（東から）

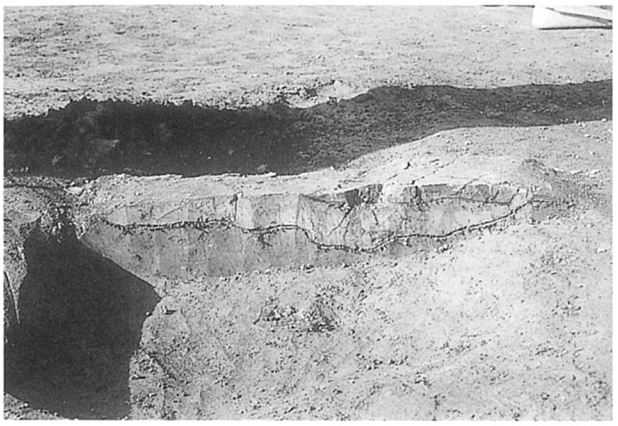
同左（南東から）

SX32



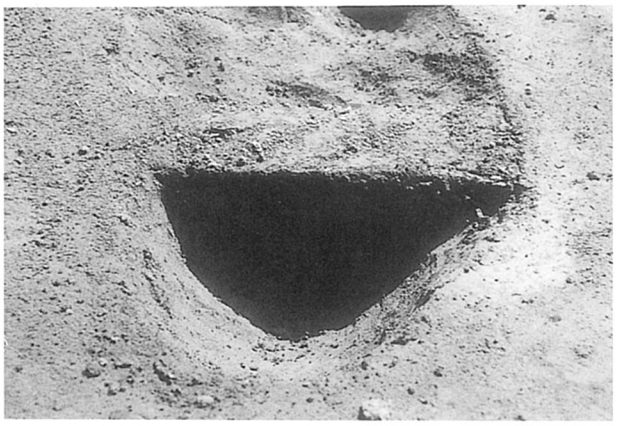
SX32の土層

SX31



SX31の土層

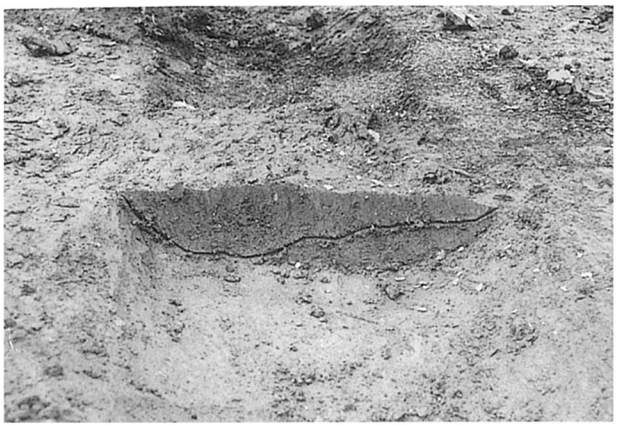
SX20・21



SX21の土層

図版 8

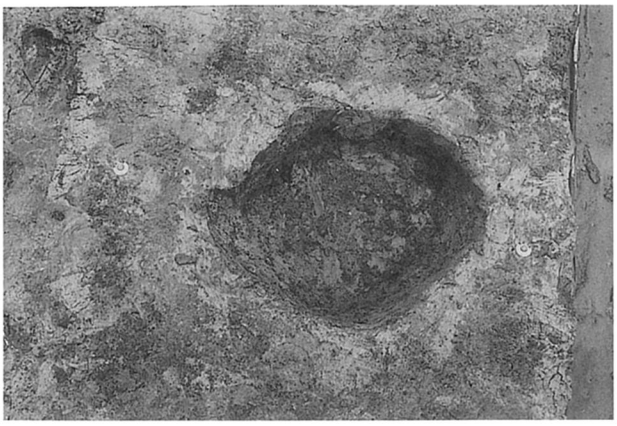
SD01



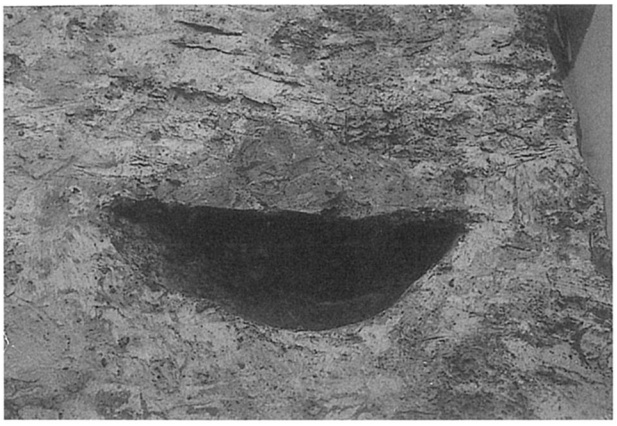
SD01の土層

SD36

SD36の土層

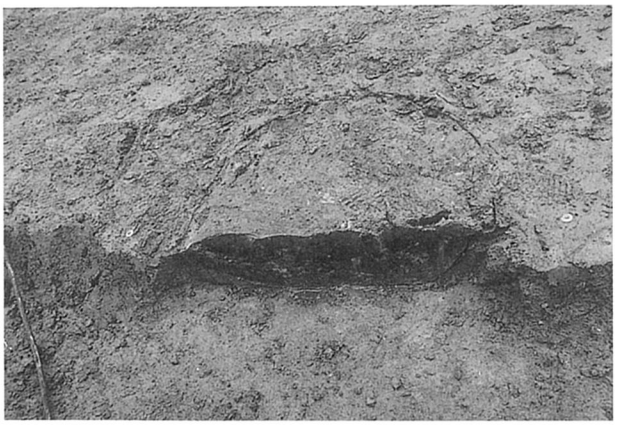


SK02

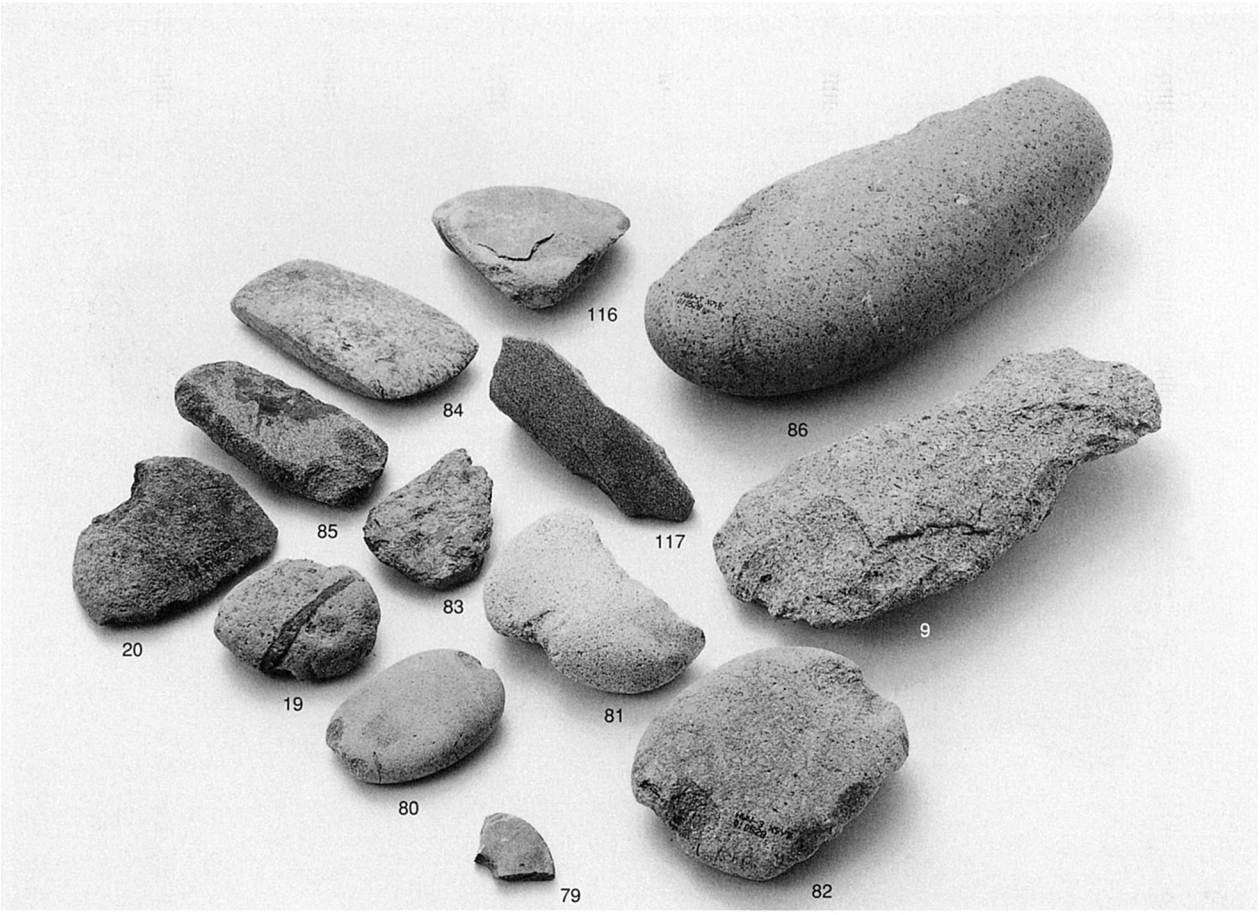


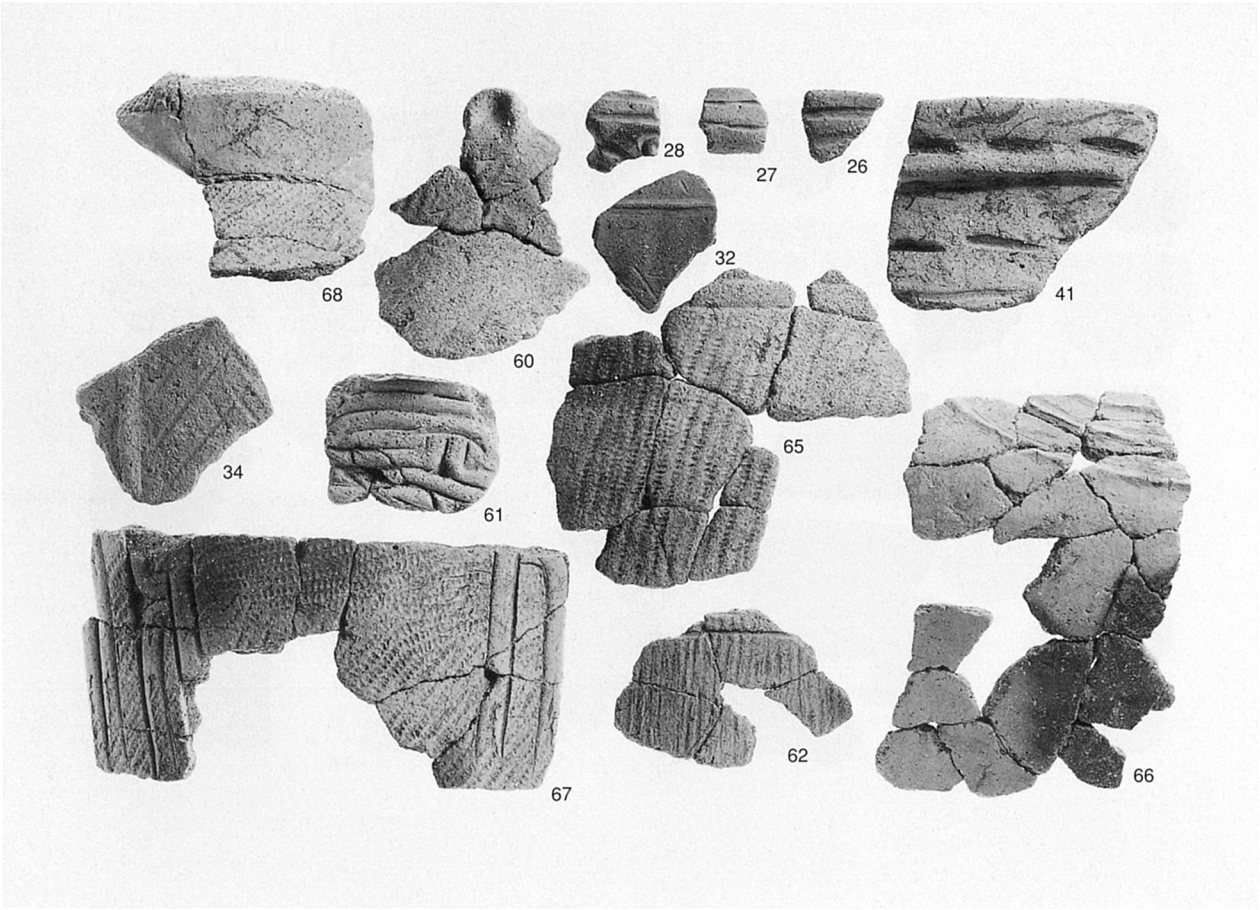
SK02の土層

SK05

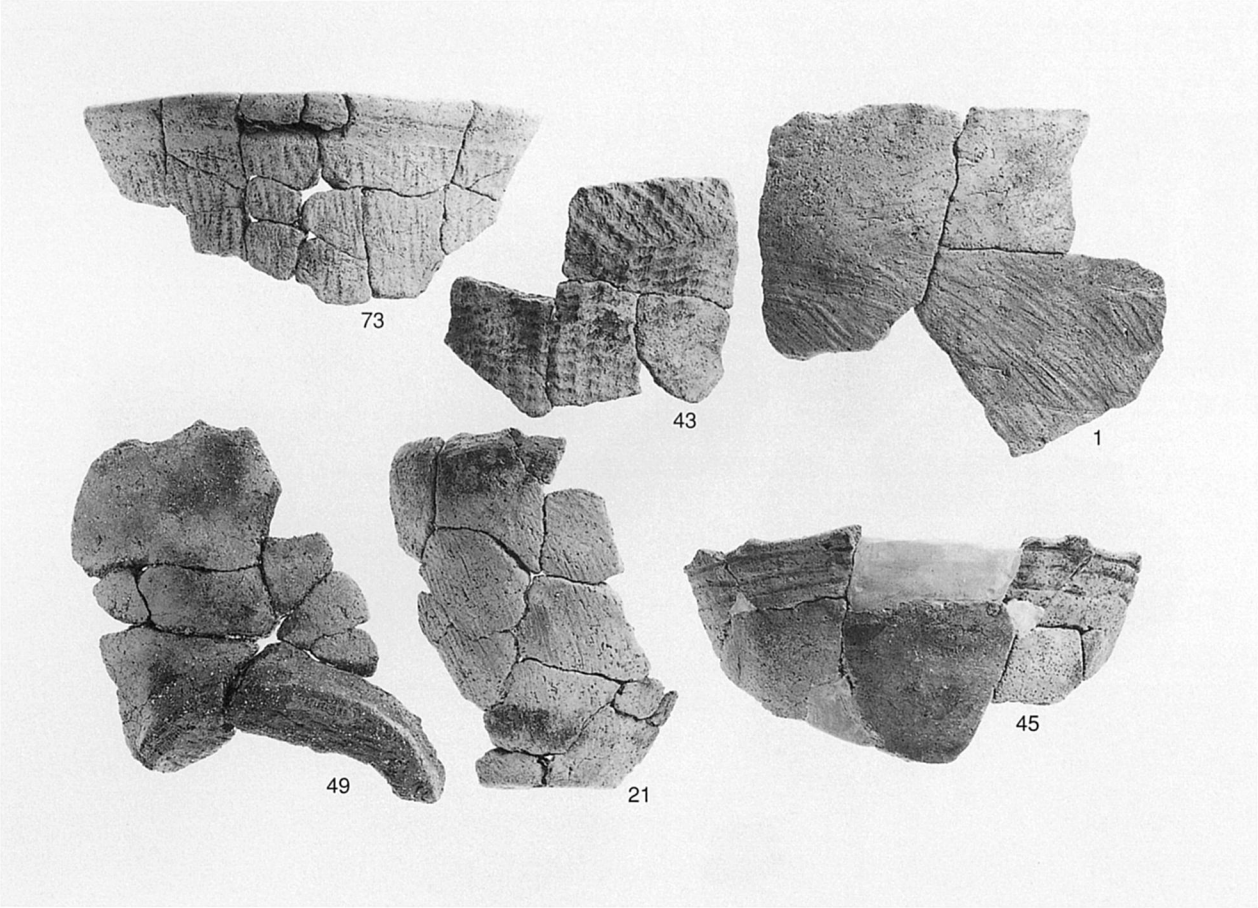


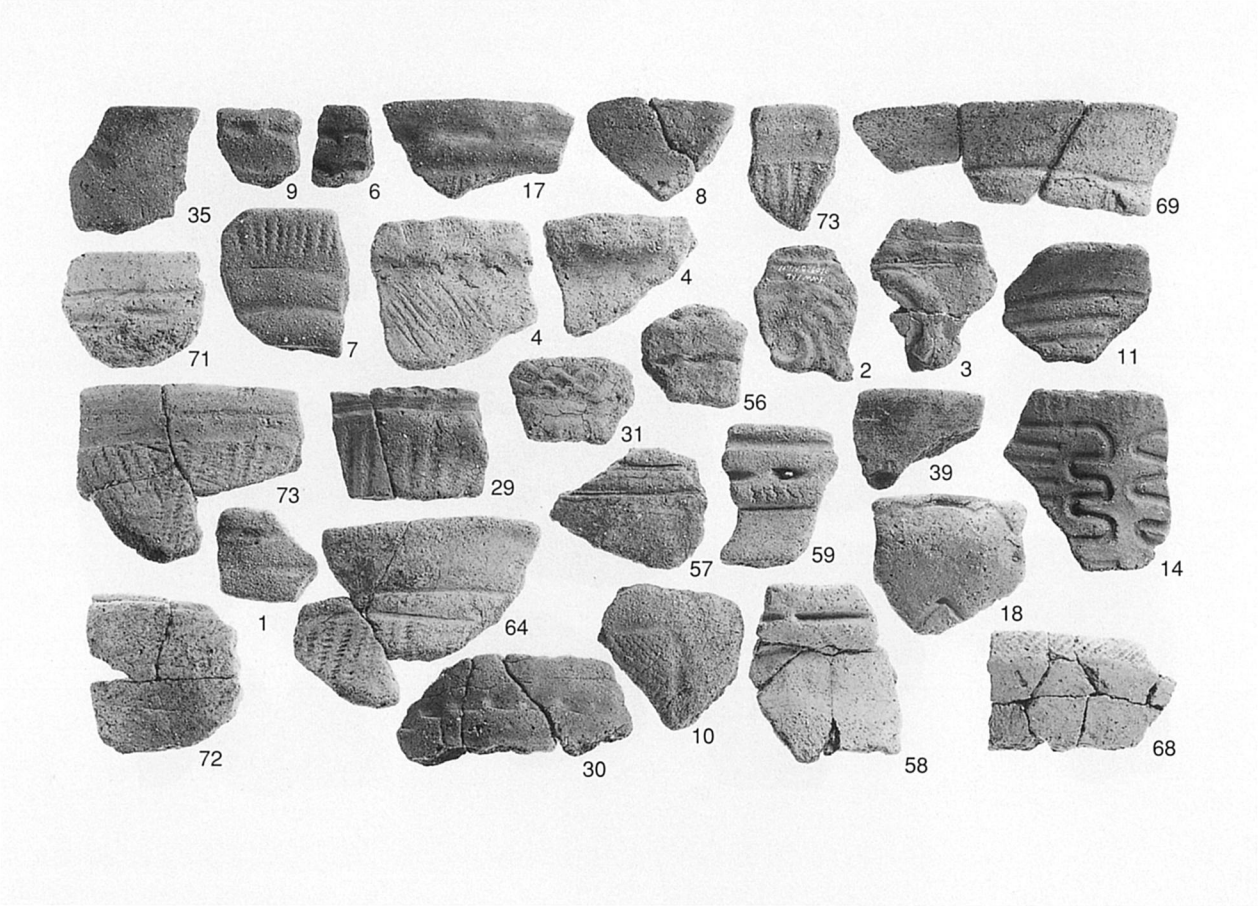
SK05の土層


116
86
84
117
85
83
9
20
19
81
80
79
82


28
27
26
68
32
41
60
65
34
61
62
66
67

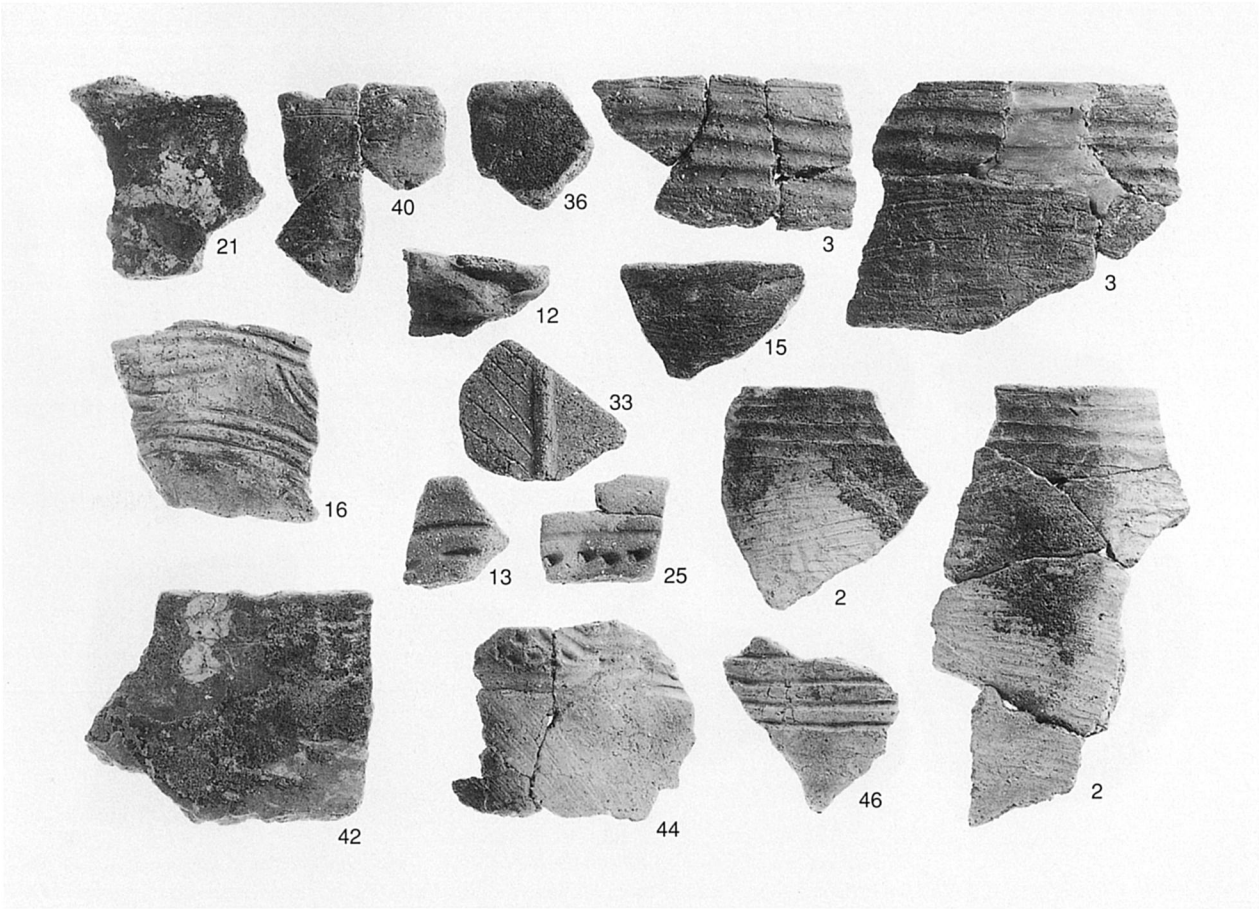
図版10


73
43
1
49
21
45


35
9
6
17
8
73
69
71
7
4
4
2
3
11
56
31
73
29
39
57
59
14
1
64
18
72
30
10
58
68

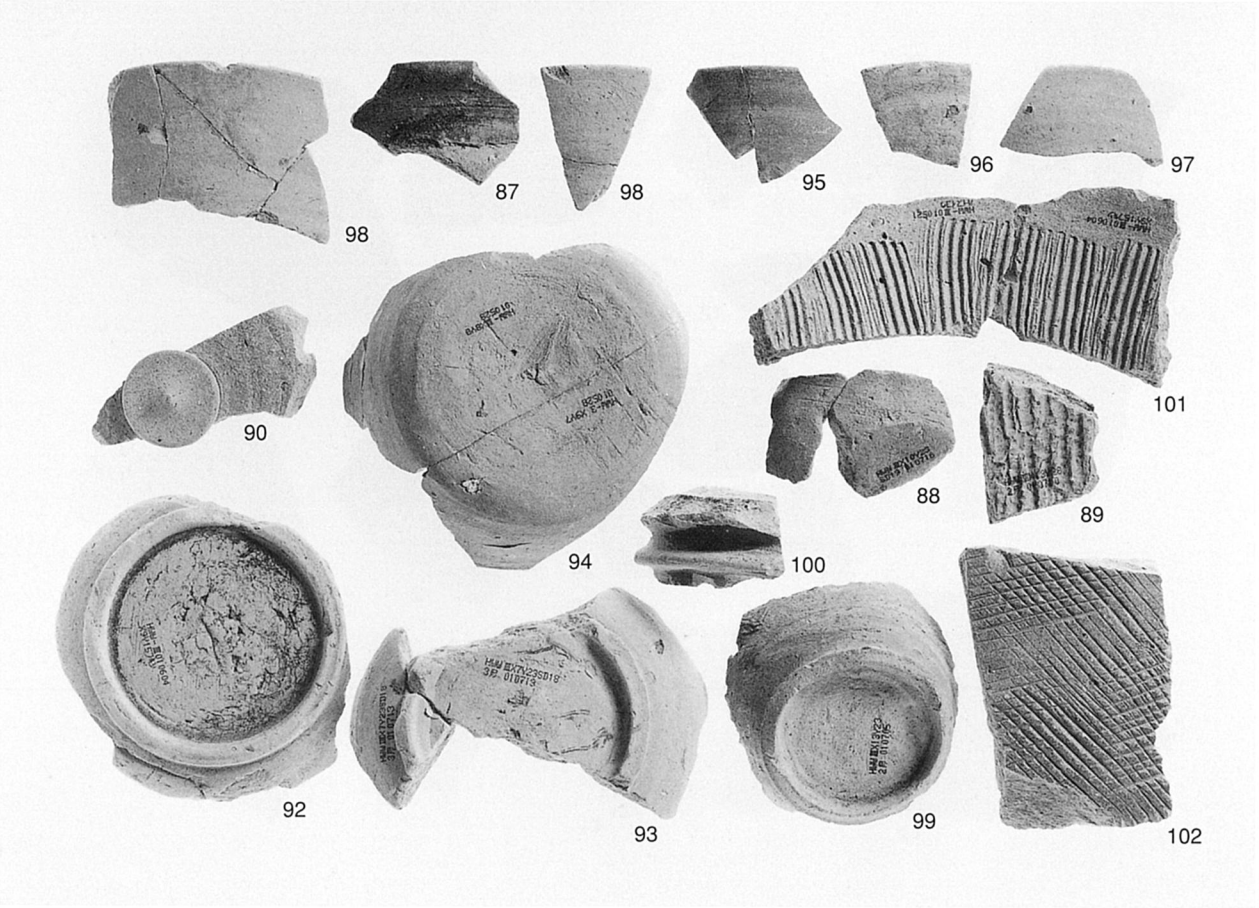
5

50


21
40
36
3
3
12
15
33
16
13
25
2
2
42
44
46

図版12

106
111
107
108
110
109
103
14
104
105
16
112
113
115
114
15


98
87
98
95
96
97
101
90
88
89
94
100
92
93
99
102

報告書抄録

ふりがな	はりわらにしいせきさんちくはっくつちょうさがいよう
書名	針原西遺跡Ⅲ地区発掘調査概要
副書名	― 町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査 ―
編著者名	原田義範
編集機関	小杉町教育委員会
所在地	〒939-0393　富山県射水郡小杉町戸破1511　TEL　0766－56－1511
発行年月日	西暦2002年12月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積m²	調査原因
はりわらにし 針原西	いみず　こすぎ　くろかわ 射水郡小杉町黒河	16381	030	36度 41分 34秒	137度 06分 58秒	2001.3.28～ 2001.3.30	430	町道東老田高岡線及び針原ﾃｸﾉﾊﾟｰｸ線整備事業に先立つ試掘調査
						2001.5.17～ 2001.8. 6	900	町道東老田高岡線道路整備事業に先立つ本調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
針原西	散布地	縄文時代	川跡・土坑・溝	縄文土器・石器	H12・13年度隣接地で発掘した川跡の一部を検出
		古代 中世 近世		須恵器 珠洲・木製品 陶器・磁器・金属製品	

針原西遺跡Ⅲ地区発掘調査概要

―町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査―

平成14年12月20日

編　集　　小杉町教育委員会

発　行　　〒939－0393

富山県射水郡小杉町戸破1511

電話：0766－56－1511

印　刷　　日興印刷株式会社

針原西遺跡Ⅲ地区発掘調査概要

二〇〇二年十二月

富山県小杉町教育委員会